No. 001

平成6年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書

－国際捜査セミナー・上級警察幹部研修コース－

平成7年3月

国 際 協 力 事 業 団
国 際 協 力 総 合 研 修 所

総 研
JR
95-26

平成6年度 帰国研修員フォローアップチーム報告書 国際捜査セミナー・上級警察幹部研修コース 平成7年3月 国際協力事業団

JICA LIBRARY
1122259 [3]

国際協力事業団
28357

序　　文

国際協力事業団は、国際捜査セミナーならびに上級警察幹部研修コースに参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関及び関連機関を訪問し、当該分野に関する技術指導、研修効果の確認、評価並びに本研修セミナー等にかかわるニーズの調査等を目的に、平成6年11月8日から11月19日までの12日間、タイ、マレイシアの2ヶ国にフォローアップチームを派遣しました。

本報告書は、上記フォローアップの調査結果をまとめたものであり、当該分野の研修員受入れに関する提言、帰国研修員の活動状況、研修効果及び帰国研修員等からの要望等を取り上げています。近年、国際社会の安全を維持する上で、警察分野の国際協力とりわけ各国の警察機関とのネットワーク造りは、今後益々重要性を増していくと考えられます。こうした意味からも、本書が今後の研修実施にあたり参考となれば幸いであります。

なお、本件調査の実施にあたり多大なご協力を賜った外務省、警察庁及び現地において数々のご指導とご協力賜った在外公館並びに関係機関各位に感謝の意を表する次第です。

平成7年3月

国際協力事業団
国際協力総合研修所
所長　岩　波　和　俊

写真１　タイ国
タイ警察庁次長サラン　ブンナク氏に表敬
(左から団長、ブンナク氏、鶴谷書記官)

写真２
タイでの第一部現地セミナー

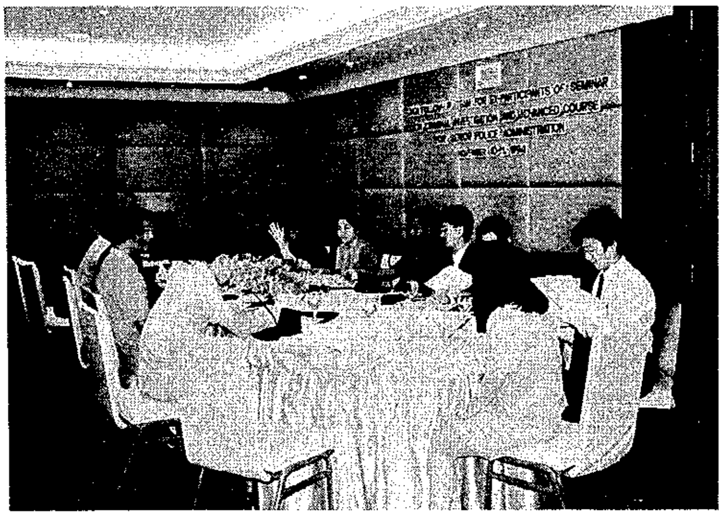


写真３
タイでの第二部現地セミナー

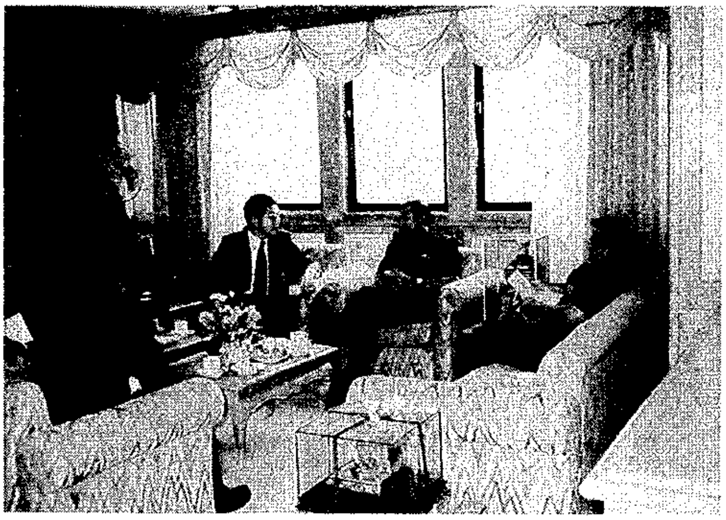


写真４　マレイシア国
マレイシア警察庁次長ダトク・
サムスリ・アルシャド氏に表敬
（左から新美団員、団長、
アルシャド氏、ラムリ氏）

写真５
マレイシアでの現地セミナー

写真６
マレイシアでの現地セミナーの参加者
（一部）

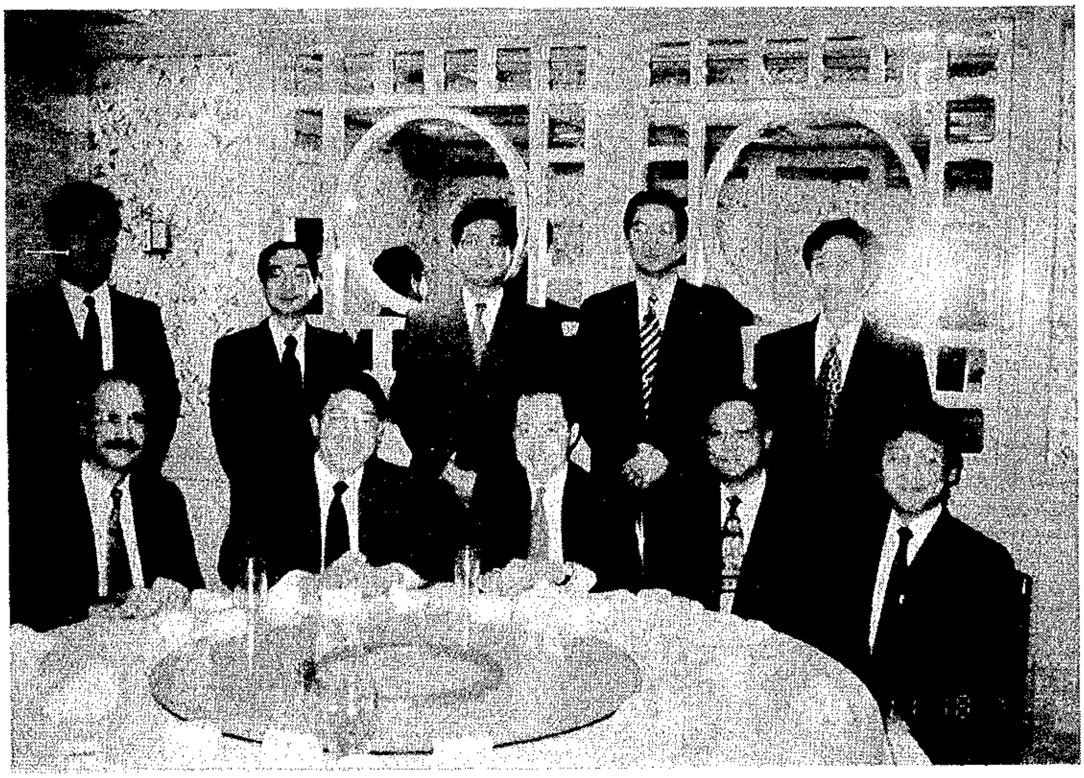


写真７　香港

香港での帰国研修員同窓会

(後列左から宮園領事、前列左から、オークス氏、

団長、ラウ香港警察次長、レウン氏)

目　　次

序　　文

写　　真

1.　チーム派遣の概要 1
　(1)　派遣の背景と目的 1
　(2)　団員構成 2
　(3)　調査行程 2
　(4)　主な面会者リスト 4
　(5)　主な面会者会談内容等 5

2.　総　括 8

3.　現地フォローアップ・セミナーの実施状況 9
　(1)　タイにおける現地セミナーの実施状況 9
　(2)　マレイシアにおける現地セミナーの実施状況 14

4.　質問表への回答内容結果 16

添付資料 31
　別添 1.　現地セミナー出席の帰国研修員リスト（含む関係参加者） 33
　別添 2.　国際捜査セミナー及び上級警察幹部研修コースの概要 37
　別添 3.　クエスチョネアー 55
　別添 4.　タイ警察及びマレイシア警察組織等 61

1. チーム派遣の概要

(1) 派遣の背景と目的

ア）背　景

近年の交通、通信手段等の飛躍的発展に従って、我が国と外国諸国との交流はますます活発化している。これに伴い、国境を越えて犯罪が行われる、いわゆる国際犯罪が増加してきており、このため、各国の捜査機関との協力などの警察機関相互の協力が大変重要となってきている。

この協力を円滑で実効あるものとする基盤整備の一環として、また、我が国の質の高い警察組織活動や我が国の警察が有する科学技術等に高い関心が寄せられ、これらに学びたいとする要望が大きくなってきており、こうした要望に応えるという観点からも、この警察の分野の開発途上国に対する国際協力の推進が必要となってきている。

このような背景の下、国際捜査セミナーは、犯罪の国際化が急速に進展する中で、参加各国の国際捜査担当の主管課長等警察幹部が相互に国際捜査関係法令について理解を深め、より効率的な捜査手法について相互理解を高め、もって各国における犯罪の防止等、国内治安の安定に貢献することが重要であるとの認識の下に設立されたもので、第1回から第6回までは隔年に実施してきたが、昭和61年の第7回からは常設化され毎年実施してきた。平成6年度でまでに16回実施し、受け入れた実績は、アジアを中心に、40ヶ国、日本人研修生66名を含み、参加者総数は、269名に上っている。

また、上述のように、昨今の急激な国際化の進展に伴い、各種の犯罪を根絶し社会の安全を維持するためには、もはや一国だけでなく、関係各国が国内外において最大限の協力を行い、強力な対策を実施することが不可欠となっている現況を背景に、昭和63年6月、東京で開催された「アジア・太平洋地域治安担当閣僚会議」においても、各国間の捜査連携、情報交換の強化等の必要性が強調され、これに対応して、上級警察幹部研修が設置された。この研修コースの目的は、関係各国警察の将来の最高幹部たりうる、上級幹部警察官の参加を得て、我が国警察の組織運営、警察活動、各種捜査技術等の警察業務全般について研修を行うとともに、参加各国の警察業務全般について意見交換を行い、もって各国の社会の安全向上と発展に寄与することである。平成6年度までに、6回実施し、アセアン地域及び韓国、香港、パプア・ニューギニアから74名に対し研修を実施した実績がある。

このような実績のある両コースは、初期の研修効果を上げ、その参加者はそれぞれの国の警察組織の枢要な地位について活躍し、警察機関相互間の協力関係の強化に大いに貢献していると伝えられているが、今般、現地において直接帰国研修員と

面談するなど、これらについて現地調査を行うため、次の目的でフォローアップチームを派遣したものである。

イ）派遣の目的

今回のフォローアップチームは、両コースに参加した各国のうち、タイ、マレイシアを訪れ、帰国研修員の所属機関及び関係機関を訪問すると共に、帰国研修員を対象として、わが国で実施した研修の成果を評価・測定し、また、当該分野に係る技術的問題点及びニーズ・要望を把握すること等により、当該研修を更に良きものとすることを目的としている。また、両国において、この分野の日本の最新情報を紹介すると共に、国際犯罪捜査・幹部警察を対象とする警察活動の分野における国際協力の基盤構築を強固なものとすることも目的のひとつであった。なお、香港においても可能な範囲内で帰国研修員と懇談を行うこととした。

(2) 団員構成

団　長(総　　括)	警察庁　警察大学校　国際捜査研修所長 兼　元　俊　徳
団　員(研修計画)	警察庁　長官官房国際部　国際第1課課長補佐 新　美　恭　生
団　員(業務調整)	国際協力事業団　国際協力総合研修所業務課長代理 能　代　　　裕

(3) 調査行程

11月8日(火)	成田発(TG 641)バンコック着
9日(水)	JICA事務所打合わせ・大使館表敬 タイ警察庁訪問 Pol. Lieu. Gen. Salang Bunnang, Assistant Director General, Provincial Police Bureau 1 JICA所長主催懇談会兼ねてタイ国派遣警察分野専門家との打合わせ
10日(木)	第一部帰国研修員との現地討議セミナー・懇談会 DTEC訪問 1) 海外研修担当　Mrs. Jitkasem Tantasiri 2) 事業計画(日本担当)　Miss Siriwan Karnsirikul

11日(金)	第二部帰国研修員との現地討議セミナー・懇談会 バンコック発(TG 114便)チェンマイ着 タイ北部警察署勤務帰国研修員と面談
12日(土)	チェンマイ国境警察本部及び麻薬対策活動見学 チェンマイ発(TG 115便)バンコック着
13日(日)	バンコック発(TG 415便)クアラルンプール着
14日(月)	JICAマレイシア事務所と打合わせ マレイシア警察本部表敬 1) Datuk Samusuri b. Arshad, Deputy Inspector General 2) Datuk Ramli b. Hj Karim, Deputy Director management (training) 3) Mr. Ariff b. Khamis, Deputy Director Criminal Inestigation Division 2 JICA所長主催懇談会兼ねて在マレイシア日本大使館 技術協力担当・領事部書記官との打合わせ
15日(火)	帰国研修員との現地討議セミナー及び懇談会
16日(水)	在マレイシア日本大使館　小嶋光昭　公使主催懇談会 クアラルンプール発　ペナン着
17日(木)	ペナン管区警察本部幹部職員との懇談会 在ペナン総領事主催懇談会
18日(金)	ペナン発(MH 058便)香港着 在香港総領事館　宮園領事との打合わせ 香港警察帰国研修員との懇談会 Mr. Lau Yuk Kuen, Douglas, Assistant Commissioner of Police, Regional Commander
19日(土)	香港発(JL 64便)成田着

(4) 主な面会者リスト

ア）タイ

大 塚 清一郎	在タイ日本国大使館 公使
水 内 龍 太	〃 一等書記官
鶴 谷 明 憲	〃 一等書記官
青 木 博	国際協力事業団派遣専門家(写真鑑識)
小 山 進	〃 (警察鑑識)
表 伸一郎	JICA タイ事務所長
中 島 晴 久	〃 タイ事務所員(研修担当)
服 部 直 人	〃 タイ事務所員(警察分野担当)
Mr. Salang Bunnag	Assistant Director General, Provincial Police Bureau 1
Mr. Chatree Soonthornsorn	Police Major General Commander, Criminal Records Div., Office of Scientific Crime
Mr. Krerkphong Pukprayura	Police Colonel, Police Superintendent, Foreign Affairs Div., Royal Thai Police (上級警察幹部研修帰国研修員)
Mrs. Jitkasem Tantasiri	Chief of Training Analysis Sub-division, Division of Planning, Department of Technical and Economic Cooperation, Royal Thai Government

イ）マレイシア

小 嶋 光 昭	在マレイシア日本国大使館 公使
神 原 康 次	〃 一等書記官
大久保 雅 弘	〃 書記官
七 海 祥 朗	在ペナン日本国総領事館 総領事
三 浦 哲 雄	〃 領事

水　田　加代子	JICAマレイシア 事務所長
草　野　忠　征	〃　　事務所次長(研修担当)
貝　原　孝　雄	〃　　事務所次長(警察分野担当)

Datuk Samusuri b. Arshab	Deputy Inspector General of Police
Datuk Ramli b. Hj Karim	Deputy Director Management (Training)
Mr. Abdul Hamid b. Mustafa	Deputy Director Management (Administration)
Mr. Musa bin Dato' HJ. Hassan	Superintendent of Training, Royal Malaysia Police
Datuk Salleh Bin Mat Som	Chief of Police, Contingent Police Hqr (Penan)

ウ）香港

宮　園　司　史	在香港日本国総領事館　領事
Mr. Lau Yuk Kuen, Douglas	Assistant Commissioner of Police, Regional Commander, New Territory North

(5) 主な面会者会談内容等

ア）JICAタイ事務所　表所長

表所長から次の話がなされた。

タイに対する無償資金協力事業で、少年院(矯正施設)の施設と技術協力を予定しています。職業訓練と矯正教育が協力内容です。

タイでは、麻薬対策が大きな課題です。JICAも北部タイのケシ栽培少数民族の定着・作物転換プロジェクトに協力したことがあります。国際的な協力案件で、国王が熱心に推進しています。

日・タイ間の警察活動分野の国際協力は大切だと思います。我が国から鑑識技術の専門家を派遣して、効果的な協力を行っています。

団長からは、次の説明がなされた。

タイにおける麻薬問題は重大である。同時にパキスタン、アフガニスタン国境地帯も大きな問題となってきています。警察分野の研修員受け入れでは、一方的に日本側が教えるという形から、ツーウェイとなり相互に啓発し合うという傾向が強まっています。

イ）DTEC

チーム側から参加資格要件をもっと上げると候補者選考が難しくなりますかとの質問に対し、DTEC側からは課長クラス以上にすると2週間以上のコース参加は困難であると説明があった。タイ側には帰国研修員同窓会に対する資金援助の予算は

ない、JICA事務所の援助をお願いしたい。DTEC側から、女性の研修員でも良いかとの照会があった。昨今の、女性の地位向上推進の世界的高まりを背景に女性に機会をより多くしたいという、希望があるようであった。資格要件を満たせば性差は関係がない旨回答した。(現に昭和63年度参加のWiwanさんは女性であったし、7年度の国際捜査セミナーには、ヴェネズエラから優秀な女性の研修員が参加した。)

DTEC側からこうした重要な研修に多くの研修員を受け入れてもらい感謝している旨の発言があった。

ウ) Mr. Salang Bunnag, Assistant Director General

多くのタイ研修員が、国際捜査セミナーばかりでなく警察活動のいろんな分野の研修の機会を与えられていることに対して感謝の表明があった後、現在タイ国にあっては、自動車交通の混雑など交通問題が大きな課題となっている。このため自分も日本に行っていろいろ学びたいと思っている。ついてはそういう折には交通安全教育などを含め、交通警察活動についての見聞を広めるため、便宜供与をお願いしたいとの要望があった。

エ) タイ北部国境警察隊と麻薬対策定住村落開発プロジェクトの見学

タイ北部国境警察隊のヘリコプターで、ファン地区ミャンマーと国境を接するドイアンカーン山腹の、かってケシ栽培移動耕作民であった黒ムッソウ族の果樹・花卉栽培定住化国王プロジェクトを見学した。タイ国王が極めて熱心に推進していること、タイ国各種行政機関が共同して村民の伝統的価値観、ペースに合わせたテンポで着実に発展させていること、育林のための適樹種の導入など中華民国の協力支援が目立っていることが印象的であった。ヘリコプターに搭乗して、ラオス、ミャンマー、タイの3ヶ国国境が交叉するチェンライ付近のゴールデントライアングル地帯での国境警察の活動について実感する機会となり、また警察隊本部では、付属のアヘン博物館にて、ヘロインに関する精製や犯罪現場などの展示を見学したのは有益であった。

オ) JICAマレイシア事務所　水田所長

団長から、日本における国際犯罪の最近の傾向について説明した。不法滞在者の死亡診断書作成の困難、死体引き渡しに伴う困難など日本警察が国際化の波に待ったなしで洗われている現状について言及した。

所長から、マレイシア警察の規律が向上していること、またマレイシア警察が指紋自動識別システムの導入について日本の協力を得たい要望があるとの説明に対

し、団長からタイでの導入事例を説明しながら、マレイシアとの友好のためにも日本警察は、前向きに対応したいとの説明がなされた。

カ）Datuk Samusuri b. Arshad, Deputy Inspector General 他幹部警察

大変有意義なコースにマレイシア警察の幹部を研修員として受け入れてもらっていることに感謝している旨の表明があり、マレイシア警察には60名の generalがいるので、高官向けのコースがあると大変ありがたいとの要望があった。

チーム団長から、銃規制、新暴力団対策法の施行と対策が実効を挙げている現状、国際捜査研修所の組織について説明した。

マレイシア側から、International Senior Command Courseをマレイシアが独自で実施していて、ミャンマー、ヴィエトナム、アフリカの国も含め15ヶ国から受け入れ、3週間の研修期間である。往復の航空賃は、参加者負担である。アメリカからも参加があり、日本からの参加も歓迎したいとの表明があった。一方、短期専門家の派遣のしくみについても照会があった。マレイシア警察の警察大学校の充実も懸案との説明があった。

キ）在マレイシア日本国大使館　小嶋公使

公使から、マレイシアの政治状況、ブミプトラ政策についての角度を変えた見方、マレイシア公務員の規律が向上していること、インドネシア、タイ等アセアン全体の政治的状況について興味ある話を伺うことができた。

2. 総　括

日本警察は、JICAの海外技術研修員受入れ事業の一環として、日本及び各国の警察機関相互の関係の強化を目的として、東南アジア諸国をはじめとする国々の警察官を対象に、国際捜査セミナーや上級警察幹部セミナーを実施している。平成6年11月、これらセミナーの帰国研修員に対するフォローアップをタイ、マレーシア及び香港で開催した。

フォローアップチームは、各国研修員と検討会等を通じて意見交換を行うことにより、今後の各国警察機関との関係のあり方や技術協力のあり方等に関し、数々の有益な示唆を得た。

また、フォローアップミーティングにおいて、帰国研修員から、今後とも日本警察とのコンタクトの機会を継続していきたいという強い希望が寄せられた。具体的には、日本で学んだことをブラッシュアップするための研修を開催することや、各国研修員の動向や日本警察をはじめとする各国警察に関する最新の情報等を日本において取りまとめて帰国研修員に配布してもらいたいとの要望がなされた。

フォローアップチームは、これらの要望・意見を踏まえ、以下の施策の推進を提言したい。

第一に、帰国研修員相互と日本警察との情報交換の場として、ニュースレターを発行するとともに、各国の帰国研修員が主体となった同窓会の設立を支援すること。

第二に、帰国研修員の知識のブラッシュアップ及び日本と各国の警察機関との相互協力の一層の推進を図るため、帰国研修員を対象としたセミナーを開催すること。

今回のフォローアップを通じ、帰国研修員の多くが各国において要職に就き活躍している状況を見ることができた。我々は、帰国研修員の各国における益々の活躍を期待するとともに、日本と各国を結ぶ重要な架け橋であるこれら帰国研修員との相互交流を一層進めていきたいと考える。

3. 現地フォローアップセミナーの実施状況

タイで２回、マレイシアで１回実施した。多くの参加者があり、参加者氏名は別添の通りである。

(1) タイにおける現地セミナーの実施状況

団長から、以下の英文レジュメに従い、次の説明があった。

団長自身が1974年の第一回国際捜査セミナーから関わっており、その後の国際刑事課長として、また、今回、国際捜査研修所長として各セミナーに関わっている。本日は、帰国研修員の皆さんに研修に対して抱いていた期待と実際の研修内容とのギャップなどについて、率直に話してもらいたい。

詳細以下の英文のレジュメの通り。

November 10, 1994
Arnoma Swissotel
Bangkok, Thailand
Toshinori KANEMOTO

Improved Curricula of the Seminars

1 Common Problems

(1) Less and better lectures

-Less NPA officials and more experienced local officers

-More outside lecturers including a judge, a prosecutor, a lawyer, a journalist, a risk-management expert, etc.

-Exploring the possibility of inviting lecturers from abroad, particularly from ASEAN countries

-Introducing weekly evaluation of lectures and its quick feed-back to the lecturers that follow

(2) More discussions and field observations

-Seminar as an international forum of police officers

-Seeing is believing ~more visits and more tours

2 For the Advanced Course for Senior Police Administrators

(1) Duration shortened from five to three months by cutting Japanese language program.

(2) Bringing in a wider range of topics that go beyond the immediate concern of day-to-day police activities.

3 For the Seminar on Criminal Investigation

More emphasis on "investigation"

November 10,1994
Arnoma Swissotel
Bangkok, Thailand

Recent Japan's Crime Situation

1 Boryokudan (Organized Crime)

-Implementation of Anti-Boryokudan-Law in 1992.

Decreased victimbs by Boryokudans.

-A series of attacks on tops executives of big companies.

ex. Murder of a general manager of Fuji Film Corp.

Murder of the Director of Hanwa Bank.

Murder of the Chief of the Sumitomo Bank at Nagoya Branch.

-Signs of international "alliance" of organized crime.

2 Gun Control

- Increase of hand-gun seizures, especially the powrful military guns of Chinese make.

-Increase of seizures from non-Boryokudan.

3 International Crimes in Japan

-More illegal immigrants.

-More felonious crimes.

-Kabukicho, Tokyo, becoming the base of Chinese gangs?

4 Traffic Problem

-Continued high level of accidents and deaths.

11月10日　第一部現地セミナー

タイ側から出された主な意見

①指紋センターなどの捜査活動技術は大変役立った。

②日本警察の組織的な活動を見学することができて有益であった。このことは上司にも報告し自らの日常活動の中に取り入れられることは取り入れた。

③若干の講義は退屈であった。テキストの一言一句を読んでいたからだ。質疑応答がもっと多いと良いと思う。

④日本での研修旅行は思い出深いものであり、北海道の山は今も目に浮かぶ。歌を歌ったのも忘れられない。

⑤研修で得たものは、知識だけではない。各々の国からの参加者に、タイの国民性について話す機会もあり、相互に理解を深めたし親しい友人となることができた。こうした、良い関係を持続するためにも、このセミナーや幹部研修のみならず麻薬対策セミナー、交通警察行政セミナーなど含め参加した研修員のリストを最新のものとすること、最近の日本警察の犯罪捜査関係する法律、技術、最高役職者の人事等を記載したニュースレターを年一回送付できるようになったらすばらしい。各国からの参加者のネットワークの再強化するのに役に立つ。

⑥タイ警察のなかで定期的に日本警察と連絡ができる人を決めておくと便利である。

⑦新しい技術、改善された警察活動について年一度のニュースレターが送られてくると大変有益と思う。特に、指紋自動識別システム、高速道路警察活動(パトカー照会司令システム)や交番など地域警察活動についての情報が盛られていると有益だと思う。

⑧研修で若干感じたことは、警察用語が適切に翻訳されないため理解が及ばないことがあった。また、講義の方法でももう少し研修員の発言を引き出したり、質疑応答を増やすとよい。

⑨この研修を終了したことがタイ警察の昇任時研修として認められるようになるとありがたい。

⑩講義の講師はいろいろな人を呼んではどうか。例えばアセアンから講師を呼ぶのもいいアイデアと思う。

11月11日　第二部タイ現地セミナー

日本チーム団長から警察幹部研修の最近のコースカリキュラムの概要について説明した。

タイ側帰国研修員から提出された主な意見は次のとおり。

①通訳者の力不足があった。警察官による英語による講義が望ましい。

②帰国研修員に対するフォローアップを充実して欲しい。サーキュレーションレターの送付、JICAバンコック事務所が中心となった同窓会の充実させてはどうか。これは、日・タイの進行中の捜査協力にも役に立つと思う。

③国際捜査セミナーでは20日間と期間が短いので、犯罪捜査にもっと集中した研修科目日程として欲しい。

④説明資料類はすべて英語のものとして頂きたい。

⑤警察幹部研修の6ヶ月は長過ぎる面があったので、3ヶ月となったのは良いことと思う。こうした研修に参加したことが、タイ国の警視昇任のために研修終了実績とされ、再びタイ国における類似の研修受講義務が免除されるといったシステムになるようタイ警察に助言してもらいたい。なぜなら、この2研修に参加すると1年中研修ということになってしまう、日本における研修もタイ国におけるin service trainingと関連性を有するような配慮をしてもらいたい。

⑥新しい捜査技術・機材の導入についてJICAの協力をお願いしたい。

⑦研修員のレヴェルは、superintendentのレヴェルを守るべき。また候補者は、operation fieldから選ばれるべきだ。

⑧警察幹部研修コースは、交番制度など地域警察の実地研修や警察官の育成訓練などタイ等帰国研修員の地域安全センター業務に役にたっており、これを更に深く研修できるとありがたい。

⑨JICAは日本の社会経済に関する雑誌を定期的に送ってくれているが、帰国研修員に役に立つ警察活動に焦点を当てたニュース・レターの発行と送付を実現してほしい。

⑩JICAは、毎年一回、日本警察の方1、2名のチームをこうした現地セミナーのため派遣してほしい。できれば、5年後には再研修の機会を短期間研修として実施してほしい。

以上が主たる意見であったところ、これらに対し、日本側から回答した主な事項は以下の通りである。

①タイ国内の昇任研修との関連では、superintendent研修の研修内容を入手したいこと、それを参考に研究してみたい。

②本セミナー等に関連するニュースレターについては、帰国研修員のリストを整備すると共に、発行送付したい。

③短い年周期の範囲に、日本からの2～3名からなる短期専門家派遣による、現地セミナーの実施の可能性も研究してみたい。他方では、日本での再研修実施についても必要性は理解できる。

④国際捜査研修所は、府中に1999年をめどに宿舎を備えた研修施設を建設予定であり、この施設がこの分野の研修員受入れ協力に大変役に立つと思う。

(2) マレイシアにおける現地セミナーの実施状況

マレイシアにおいては、日本大使館から菅原、大久保両書記官、JICA 事務所から水田所長、草野、貝原次長の出席を得て、日本側団長の総合司会のもと、マレイシア警察の Deputy Director Datuk R. b. Hj Karim の司会により、別掲の帰国研修員の参加者からの意見が聴取された。主な意見は次のとおり。

①警察幹部研修に参加し、6ヶ月間は少し長いと感じていたが、3ヶ月間となったと聞いて改善されていると思う。講義については、議論をする機会を増やしたら良いと思う。

②ケース・スタディーがとても良かった。県警、交番、駐在所などについての基本的概念は有益であり、また1週間程度の地域警察に関する実習は特に印象深いものだった。警察官の夫人にも手当てが与えられ、地域の安全センターとしての役割を担っている姿は感動的なものでした。こうした、地域警察の現場研修は大変有効だと思います。すこしこの期間が延びるとよいと思う。

③日本人の警察捜査官が研修に参加していて大変効果的です。同窓生であって、ネットワークの役割もあります。

④日本以外のまた研修員以外の講師が海外から招聘されると例えば、タイにある国連の麻薬撲滅の機関からですとか、アメリカの犯罪捜査機関とか教授から講義を聞けると、非常に参考になると思います。実際に最近は、UNAFEI に来られていた、David 先生による講義など、そういうことが実現していると聞いています。

⑤日本での研修がマレイシアにおける経歴にプラスになる資格付与となるとありがたい。

⑥検死解剖についての研修項目が入るとありがたい。

⑦国際捜査セミナーについて、3週間は短いです。6週間ぐらいが必要と思う。セミナーの中心テーマを設定して、カントリーレポートもそれを中心に発表させるとよいと思う。

⑧県警本部での研修を充実させてほしい。

⑨非常に有益なセミナーなので研修員の数をもう少し増やしてほしい。

これらに対して、日本チーム側から伝えたところの主なものは以下のとおり。

①国際捜査セミナーは高官に対するものなので、幅広い内容が良いのか、犯罪捜査活動の特定テーマに絞るのが良いのか迷うところですが、7年度のセミナーでは、組織犯罪に焦点を当て、また県警本部における防犯、犯罪捜査、地域警察活動についての研修を考えている。

②上級警察幹部研修では、週単位での研修評価を行い、迅速に対応することにしている。講師に関して、県警における警察活動の有能な、経験の深い者が英語もできる

ということを望むのは難しい。この分野では、英語力の問題より、経験豊かな講師が適当というのが本当のところである。

4. 質問表への回答内容結果

質問表に対する回答の詳細は別表に掲げているが、取りまとめた結果は次のとおりである。

(1) 研修員候補者の選定過程及び出発準備

タイでは、タイ警察外務部は、DTECからの募集の通報を受け、適正に候補者を選考し、DTECの英語力試験の結果合格した者2名を日本に推薦している、コース内容の理解および出発準備等JICA事務所の手助けも十分で、問題はないようである。マレイシアにあっても、マ国公務員局が、マ国警察職員研修担当部局に通報し、同部局の公平な選考を経て公務員局に推薦されており、例外的なケースを除いて、研修コース内容の事前理解、出発準備に問題はない、と言える。

(2) 研修期間等について

上級警察幹部研修については、本研修の開始初期の回に参加した研修員から、研修期間が長いという意見があったが、すでに改善され、3ヶ月間になっていることから適切な期間となっている。

国際捜査セミナーの研修期間については、妥当とする意見が大半である。

(3) 研修員資格について

国際捜査セミナーは、中央警察機関の捜査担当課長または警視相当以上という資格に大半が賛成し、警察幹部研修についても将来の幹部級の警察官で、中央警察機関の課長補佐以上という現行の資格を守るべきというのが大方の意見である。

(4) 研修コース内容についての要望について

国際捜査セミナーについては、もっと個別の中心テーマを設けてほしいとの声があった。これに対し、日本側でもそうした必要性を理解していたので、7年度でのセミナーでは、「組織犯罪」に焦点をあて、県警本部での警察活動も充実させることとしている。

上級警察幹部研修では、日常的警察活動全般の実務研修についても有益であるが、より広い視野を付与するトピックス(経済犯罪、環境犯罪、人権侵害)を取り上げてほしい。また、研修員以外の外国人講師による講義を希望するものもいた。

(5) 研修の評価・効果について

質問表の回答を見る限り、大変役に立った、あるいは役に立ったというのがほとんどである。それほど直接には役立たなかったという例外的な回答があったが、それは

指紋自動識別システムについて集中的な技術研修を期待していたためで、研修全体としては有益であったとしている。

役に立った例として上げられているなかでは、日本警察の制度組織、警察活動、地域警察の実情についての理解が深まり、帰国後の現場で適用の努力を行ったという回答また日本警察との協力に際し理解が容易となったとの回答が目立っている。参加各国の警察活動について知る機会となり、参加各国の捜査機関に友人ができたとしている。

(6) 研修員の帰国後の活躍について

香港を含め面会できた研修員25名は、それぞれ昇任し、各国の警察機関の大切な地位について重要な役割を果していることが質問表からも読み取れる。

こうしたネットワークができている事は、我が国にとっても本研修等が有益である事を物語っている。

(7) フォローアップについて

再研修の希望もあるが、特に帰国研修員のリストのアップツーデート化と日本警察の最新の情報を掲載したニュースレターについて定期送付を望む声が多かった。また、フォローアップの観点から帰国研修員に対するリフレッシュセミナーの実施について強い要望があった。さらに、日本側からの代表団の派遣を毎年行い、その際に、現地での同窓会の開催及び日本側との意見交換の機会の設置を望む声が強かった。

(8) その他日本側に希望する事項について

ア) マレイシアでは、指紋自動識別システムの導入への技術協力を希望する帰国研修員がいた。

イ) タイでは、鑑識分野の専門家派遣が成果を上げているが、技術協力で導入した指紋自動識別システムの維持管理にかかわる、更なる協力について要望する研修員がいた。

I. 質問表回答(タイ編)

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
Man	1985 捜査	Deputy-Superintendent	Deputy-Commander (Tourist Police Division)	バンコック首都圏警察本部から通知があり応募し、DTECの試験が良い点だったので候補者となった。現在の選考過程についてよく知らないが問題があるとは聞いていない。	有益であった。日本で学んだことを自分の組織に適合した形で取り入れた。 日本人の熱心に働く、そうした姿について自分の部下にも話をし、激励してきた、規律ある行動が組織が全体として良く機能する上で大切であることを日本から学び部下にも伝えたが、このことは学んだことの適用の良い具体例である。	①研修期間等については適当である。 ②帰国研修員の若干名は知っており、また国内外の帰国研修員と情報の交換を行っている。同窓会にも参加したい。 ③spoil system, low morality, low payが問題と思う。 ④Ex-participants(帰国研修員)間で再会(再研修)の機会があるとよいと思う。日本警察の最近の活動情報に接したいのでFBIのBulletinのようなニュースレターの配布をお願いしたい。
Wiw	1988 捜査	sub-Inspector	Inspector	十分な英語能力が必要と思う。	セミナー参加はそれほど役に立たなかった。参加当時犯罪事件の科学捜査部局に勤務していたのでセミナーの中心的な研修項目は自分の関心領域ではなかったためである。このように、セミナーは直接的には自分の業務に役に立たなかったが2ヶ国間の警察関係が密接なものとなり、また日本警察についての理解が深まった。 MPDとNPAのTechnical Identification Equipmentについての理解が深まったので、所属部局の技術向上に有益であった。 注:日本より供与の指紋自動識別システムの良き理解者を急ぎ育てる必要もあり、本セミナーに受入れたものと推測され、研修実施のニーズは高かった。	①コースは1ヶ月が良い。また1ヶ国から2名がいい。inspectorクラスでよい。 ②帰国研修員との交流はあり、情報の交換も行っているが同窓会は興味がない。 ③現在、指紋自動識別システム・装置を担当している(1991年に日本が供与したもの)。この装置は指紋照合に成果を挙げているが、しばしば機械とソフトでトラブルが生じる。自分では解決できない、特に東京のNECにより開発されたソフトが困難。この状況から仕事が中断しはかどらないことがある。 ④両国の捜査機関間の国際協力は良いことだ。犯罪捜査の共通の基準を作るためにも各国の経験と知識を交換することができる。警察活動・技術情報に関するニュース・レターの発行

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
						と送付はこうした成果をより高めることとなり、実現を希望する。
Chat	1989 研修	Deputy Commander (Research and Planning Div.)	Commander (Criminal Record Division)	参加資格を満たしており、問題はない。	セミナーの講義から幅広いものの見方を学んだ。更に、様々の国からの参加者との意見交換は知識を深めるのに有益であった。特に有益であったのは、捜査活動担当者間の協力調整の重要性を再認識したことだった。自分の業務に実際に、学んだ警察捜査技術を適用してみた。	①特に意見はない。 ②帰国研修員間の交流もあり、同窓会にも参加している。 ③最近の日本警察についての情報などいろいろな情報の不足である。
Sur	1989 研修 1986 捜査	Inspector	Deputy Superintendent	バンコック首都圏警察本部を通じ知った。適正な選考過程を経て推薦された。	非常に有益であった。 捜査の新技術、通信司令システムセンター、防犯活動計画及び銃器規制については有益であった。 パトロール、交番、警察と地域住民との関係などの地域警察活動に関する知識と経験を自分の所属部局で生かしているし、また、上司や同僚に伝達した。	①Police Lieutenat Colonel (Deputy Super Intendent) 以上を対象とするのが良い。研修員の人数も14名程度が良い。科目として次のテーマを望む。criminal investigation, observe the operation unit, case study, new technology of investigation method, criminal law, recruitment of investigation investigator, training course for investigator, criminal justice system in Japan and participant's countries, drug control, organize crime, international crime control, international criminal investigation (network and procedure) ③人材養成が課題である。 ④国際社会は急激に変化している。こうしたなかで、国際犯罪事件捜査に対処するためには、国際犯罪情報を収集し、構成国に情報を提供できる国際警察センターが必要であろう。また、このセンターは構成国に新しい捜査技術及び知識を供給する役割を併せ

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
						持てば、業務改善に資するであろう。
Kitt	1990 研修	Scientist (second-level, scientific crime detection division)	左記に同じ	英語試験を合格して推薦された。	(資料欠落)	①研修期間は25日間で適切である。警察官にはとても有益と思うので、sub-inspector, inspectorレヴェルを対象に地域警察官活動を深く研修できる別のコースがあると良いと思う。 ②帰国研修員とは情報の交換を行っているし、同窓会にも参加したい。 ③現在、自分は警察官が社会における社会的地位について十分認識していないと思う。自己評価に基づく自己認識が十分でない気がする。 ④私の要望は、階級の低い警察官に対する教育の付与で、アジアの他の諸国の同僚の活躍ぶりについて良く知らされることが必要。特に比較的階級の低い警察官に対するon the job trainingを希望する。
Adis	1991 研修	Investigation Inspector	Crime prevention and Suppression Inspector	警察庁外事部のニュースで知った。出発に至る手続き準備についてのJICAの情報は十分であった。	研修は有益であったが、police tactics(警察活動戦術)について学べたらもっと有益となろう。研修参加で、防犯政策への市民の協力のとりつけの重要さについて学んだ。 地域警察官と地域住民の共同のパトロールといった市民との協力に関する概念は自国に適用し得るし、交番等を地区に設けるといった地域警察活動の拠点、「生活安全センター」としての制度は有益であった。	①コースの期間等についてはコメントなし。 ②自国の帰国研修員との交流はあり、情報の交換も行っている。同窓会には参加したい。 ③業務遂行上必要とされる資機材(コンピューター、通信)について国が十分に予算措置をしないことである。 ④科学的証拠検定技術を学びたい。
Suki	1991 研修	Inspector	Inspector Commissioned	問題なし。	有益であった。 自分の勤務していた警察署と住民との関係改善に役	①コースについてのコメントなし。 ②自国の帰国研修員との

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
					に立った。交番等を中心とする地域警察制度の概念が役に立った。	交流、情報交換は行っている。同窓会には参加希望する。 ③高度技術等資材の不足に困っている。
Tod	1991 捜査	Inspector, Planning & operation MPB	Inspector, Traffic Police Division	問題ない。	非常に有益であった。 自国以外の国際捜査機関を知ることができ、相互に比較し参考となった。 最近の技術・資機材についても理解が深まった。	①研修期間等については問題ない。 ②自国の帰国研修員とは情報交換を行っている。同窓会に参加している。 ④最新の日本警察の情報が欲しい。
Arc	1992 研修	Inspector (Policy and Planning) Narcotics Sup. Bur	同左	問題ない。	有益であった。	①より短い研修期間で、上級職員対象の20名程の研修で(複数国参加)の上級捜査官の研修をお願いしたい。
Supa	1993 研修	Inspector	Deputy Superintendent	タイ警察外務部から知らされた。DTECの英語試験を合格して、推薦された。	有益であった。自分は、どのように日本警察の制度が機能しているかについて学ぼうと期待していたが、私の知ろうとした期待は完全に満たされた。将来きっと、タイ警察においても役に立つであろうthe community policing(地域警察活動)の概念について学ぶことができた。 日本語を学ぶという動機付けが行われたので、タイに帰ってからも折に触れ、近くに住んでいる日本人と話すなど練習している。	①自分は4ヶ月コースに参加したが、少し長い気がするので、3ヶ月間が妥当と思う。学びたいと言う意識のある人には機会が与えられるべきだ。Jail managementという研修項目が付加されるとありがたい。 ②タイ警察のなかには帰国研修員の同窓会はないが、設立されれば参加したい。自国の帰国研修員とは交流があり情報の交換を行っている。 ③現在業務上困っている事はない。 ④今後の本分野の国際協力についての意見として、現在タイには多くの日本人が住んでおり、これらのうちの若干は不法なギャングのメンバーであろう。日本人の被疑者に関わる捜査に携わるタイ警察に日本語ができる人がほんの少数なので、言葉の問題が大きな壁となってい

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目 候補者選定過程等について	質問項目 帰国してから見たセミナーの評価・成果について	質問項目 その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
						る、JICAはタイ警察官の日本語研修を実施してもらいたい。
Akar	1994 捜査	Inspector Supression & Prevention	Inspector Administrative	タイ警察の告知板を通じて知り、試験を受けた。	有益であった。研修員間の経験と情報の交換が特に有益であった。 問題解決のための幅広い概念を身につけた。 組織的判断と組織のよりよい動きのための改善に役に立った。	①セミナーは現状でよい。 ②帰国研修員との交流はある。同窓会に参加するつもりである。 ③困っていることは、進んだ技術の不足、処理能力の遅いことである。 ④参加した各国の研修員と再会し意見交換したい。
Krer	1994 研修	Police Superintendent タイ警察外事課長	左記に同じ	フェアーな選考で問題ない。	有益であった。 日本警察のカウンターパートの社会的一業務遂行環境についての理解が深まりこれと併せて日本の警察におけるポリシングについて理解が深まった。日・タイ間には現在進行形の犯罪事例がいくつかあり、これらについて日本側から背景調査、逃亡犯捜索など様々な協力依頼がある、こうした背景から、東京へのより有益な情報提供ができるためにも日本警察の捜査過程について理解しておくことは役に立つし、逆にタイ警察にとっても適切な協力依頼が可能となるので日本の警察組織活動をよく知っていることが重要である。	①研修期間などについては現状で問題はない。 ②タイ国の帰国研修員はほとんど知っており交流がある。同窓会は興味がない。 ③アジア地域における国際犯罪数が増加するにつれて、経済犯罪、環境への犯罪、人権侵害など新たな領域に対処する知識を必要としてきている。
Itti	1993 捜査	Deputy Superintendent	左記に同じ	タイ警察庁の外務部を通じ、セミナーのことを知り、タイ警察庁外務部とDTECの英語試験を合格し推薦された。この英語試験の結果は、6ヶ月のみ有効とし、その後他の外国研修に応募する際、再び英語試験を受けなければならない制度の導入を検討	非常に役に立った。タイ警察の活動に直接役に立ったという側面ばかりでなく、日本人の生活様式、物の見方についての理解が深まったので、日本警察から求められる捜査協力実施上大変役に立っている。	①研修期間は最適である。研修項目のなかで、参加各国のカントリー・レポートは、もっとcriminal proceedingsの個別・具体的なトピックスであればもっと有益であろう。例えば、参加研修員が他の参加国における捜査に関する諸規則について発表すれば大変参考になる。

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
				している。 JICAタイ事務所の研修受入れについての説明、手助けで出発準備に問題はなかった。		③国際捜査協力についての一人の捜査官の役割、責任は限界のあるもので、もっと多くを期待される場合は、たとえ時間がかかってももっと上層部の問題として処理されるべきと思う。 2ヶ国の国際犯罪捜査官同士の会合があれば良いと思う。こうした会合は、研修員双方の知りたいと思っている、捜査システムについて理解を促進し、その結果、研修員は期待に添う回答が得られよう。

II.　質問表回答(マレイシア編)

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
Rej	1985 捜査	Officer in charge of training, CID	Head of Banking Unit, Commercial Crime Div.	マレイシア警察の職員研修部によって推薦された。 ジェネラルインフォメーションをコース開始直前に入手した。出発準備に問題は無かった。	非常に有益であった。 各国の参加研修員間及び日本警察職員との意見交換の場が提供された。 このセミナーは私にとって、新しい警察活動に目を向けるきっかけとなった。	①研修期間は適当である。参加者は、犯罪捜査について十分に経験ある者で、かつ、監督の地位にある者が望ましい。日本以外の先進国からの参加者が含められるともっと効果的である。研修項目としては、犯罪捜査技術、criminal scene、問題解決のためのブレインストーミング、等が含められるとよい。 ②自国の帰国研修員の多くを知っており、また、内外の帰国研修員間で情報の交換を行っている。同窓会にも参加しようと思う。 ③現在、white collar criminalsを取り扱っているが、彼らは優れた専門知識を持っている。国際的な関連性を有する。犯罪人を担当する時には異なる司法体系と法律が絡んでくるのでこれが極めて大変である。 ④理想的には、CID officerは、国際会議等に積極的に参加させられるべきで、そうすれば、相手国の関係者がどう働いているか、また考え方の理解と情報の交換が容易となる基盤ができよう。
Isma	1988 捜査	Deputy Head of Commercial Crime Division	An Officer in charge, responsible for the general policing of Kerantan Dist.,	公務員局からマレイシア警察を通じ通報があった。研修委員会で選考され、公務員局長の承認を得て推薦された。 ジェネラルインフォメーションの入手、出発準備等何の問題も無かった。	役に立った。国際法、参加各国の法体系および捜査手法についての知識を拡げることができた。 このセミナーに参加して獲得できた知識で、自分が国際的な犯罪を取扱う時に、自身を持って業務に向かうことができる。 また、国際犯罪の取り扱	①研修期間は十分である。研修員の対象は、Deputy Superintendentあるいは、Assistant Superintendent Police (ASP)が適当で、日本以外の先進国の参加があると有意義と思われる。 研修員数は20～25人が適当。

記号	参加年度 幹部研修 捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
					う際、このセミナーに参加した国々の研修員間の関係が改善され情報交換が円滑となった。 科学捜査手法や犯罪現場(at the scene of crime)における犯人割り出しといった犯罪捜査上の有益な技術の適用ができた。 習得した知識は、日常の業務遂行の中で自分より下位の職員に教えている。	研修科目としては、犯罪捜査のすべての側面を網羅してほしい。 ②自国の帰国研修員はほとんど知っており、帰国研修員間の情報交換は行っている。同窓会には参加したい。 ③現在困っていることは、捜査に従事する人手不足と、捜査機材の不足です。 ④もっとこうしたセミナーが多くなり、各国の捜査官同士の交流を深めたい。
Bula	1993 研修	Head of Criminal Invesgitation, State of Malakka	左記に同じ	上記に同じ。特に問題はなかった。	役に立った。 日本のpolicingのやり方についてより理解が深まった。 学んだことがそれほどマレイシアに即適用可能という訳ではない。というのも、マレイシアの捜査方法と組織もマレイシアに適したあり方で、同じように立派なものであるからだ。日本の有利さは、同質的な社会で文化的にも斉一である点と思った。	①研修期間は更に2週間程長くしたら良い。しかしそれ以上長いと食べ物で困りそうだ。 研修員の資格は、lieutenant colonel/colonelの階級にあるものが望ましい。研修員の人数は20名が限度と思う。ミャンマーはゴールデントライアングルに位置しているのでぜひ参加国に加えられるべきだ。 police to policeの協力及び捜査の改良など研修項目を重視してほしい。 ②自国の帰国研修員との情報交換はある。同窓会も入ろうと思う。 ③研修員の質問や要望については、適宜的確に回答が与えられるべきだ。
Karim	1994 捜査	Deputy Head Criminal Investigation, in Sarawak	同左	ブキットアマンのマレイシア警察の職員訓練部局から通知で知り、公平の選考を経て推薦された。 出発前の情報等に問題はない。	役に立った。 犯人特定/指紋鑑識センターと科学捜査研究所の訪問とそこでの講義は非常に有益であった。このように、最新の犯人特定技術と技法を知ることができた。 マレイシアに指紋自動識別システムが早期に導入さ	①研修期間は30日間が適当。 警察のSuperintendent階級以上が望ましい。参加国としては、アジア、アフリカ及び中南米の幅広い開発途上国からが望ましい。 指紋採取の技術や犯行

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
					れれば犯人特定がもっと速くかつ効率的に行われよう。犯人検挙率の向上に役立つのでぜひ導入したい。	現場からの証拠資料収集技術を含めるとありがたい。カントリーレポートの発表会は夜間の自由グループ間でやり、セミナーの主たる日程としない方が良い。 ②自国の帰国研修員とは情報の交換を行っているし、同窓会にはできれば参加したい。 ③捜査官は不足しており、したがって犯罪現場での証拠資料の採取・収集に十分な時間がかけられないこと、輸送手段など機動力の不足、また特に未解決の事件解決のためには、最新の指紋自動識別システム・被疑者写真検索システム技術の導入と訓練が必要で、日本の援助をお願いしたい。そうすれば、犯罪人に関する国際捜査・情報交換が促進されよう。
Mutalip	1989 研修	Divisional Superintendent, San dakan	Assistant Director of Management (personnel)	マレイシア警察の担当部からの通知、選考を経て推薦された。公平であった。準備等に問題はなかった。	非常に役に立った。科学的捜査に関する知識と警察活動に関する進んだ技術は特に有益であった。私がサバ州の犯罪捜査部長だった時また後にクアラルンプールの、犯罪捜査部長であった時部下に対し、適切な指導を与えるのに役に立った。	①上級警察幹部研修の本コースの研修期間は3ヶ月が適当である。各国2名が妥当。国際犯罪に立ち向かっている国家間の協力。現代的捜査手法、科学的捜査方法などの研修項目は重要である。 ②自国の帰国研修員のほとんどをよく知っているが特に情報交換をするということはない。同窓会には参加したい。 ③記載なし。
Sera	1991 研修	Assistant Lecturer, Police College	Lecturer, Police College	「マ」警察の回覧で知った。個々人のメリット、組織としての必要性を勘案して本部選考委員会で推薦された。出発準備に問	非常に役に立った。 警察大学校の講師としての仕事上非常に勉強になる、適切なものであった。 私の講義の中で、異なる警察組織についての参考資	①上級警察官研修で6ヶ月であった。特に研修期間等問題はないが、参加資格はsuperintendentクラス以上が適当。研修項目としては、警察行政と管

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
				題はなかった。	料としたり、比較分析を大いに進めることができることとなり、この点役に立ち有益であった。	理、現代policingでよいと思う。 ②国内外の帰国研修と連絡を取り合っている。同窓会に参加している。 ③特に興味のあるテーマは国際警察協力および国際的な経済犯罪に関連する講義である。 ア.各国の警察活動・手続きや法律の理解促進 イ.国際捜査協力共通の手続きや枠組みの確立が必要と感じている。 備考:本研修員は英国、フランス、アメリカなどへ研修・会議出席などの経験がある
Saar	1991 研修	Superintendent (OCPD Campbell, KL)	Assist. Commissioner of Police	同上 問題なし。	役に立った。 「マ」国のpolicingの仕組みと似たところがあるのでもっと「比較」という観点からの講義がありがたい。そうすれば日本の地域警察概念がもっと理解しやすいと思う。 部下が地域社会へのサービスや業務を行う際に日本警察のモラルの高さを示し教育に利用している。	①研修期間は3ヶ月が適当。 Deputy Superintendent以上が適当。 インドネシア、シンガポール、ブルネイ、タイ、フィリッピン、韓国等のアジア諸国からの研修員が有益だ。最新の課題を含めてほしい。 ②自国の帰国研修員はほとんど知っており情報交換も行う。同窓会の委員会の委員。 ④現在、「マ」警察の1年間の警察科学コース(diploma)に参加中である。
Nasu	1992 研修	Contingent Administrative Officer, Saba	Officer in charge police district, Saba (サバ州警察タワウ管区長)	同上。問題ない。 将来性のある人というのが基準のひとつとなるべきだ。	役に立った。 参加各国の捜査機関の組織と運営について学び比較することができた。また、様々な捜査技術も学んだ。研修で学んだ知識と参加各国の現状の理解から現在の任務である地区警察の長としての責任を果たす自信が与えられた。	①研修期間など研修についての新しいアイデアなどについては研修終了時の評価会でコメントした。 ②多くの帰国研修員を知っており、情報交換している。同窓会には参加したい。 ③地区の警察の長としての問題意識は、どのよう

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
						に、犯罪発生件数を減少させるかという方法・手段を発見する事に関連しており、犯罪の防止と解決の新しい方法を見いだす事が必要である。私はこのために努力を惜しまず頑張っている。したがって、アジア諸国の警察幹部が相互にいつも情報交換できるようにし、グローバルに警察の当面する諸問題について理解を深め、協力関係を築けるようにしたいものである。
Mokh	1987 1989 捜査	Officer in charge of Criminal Investigation, Kedah/Penang	Officer in Charg Criminal Invest-gation, Pahang, Deputy Commissioner of Police	マレイシア公務員局(Public Service Department)からマレイシア警察に通知があり、同警察が適切な候補者をリストアップし最適任者を選考した。	非常に役に立った。 本セミナーは私が多面的な問題を評価する上で必要な幅広い研修科目を網羅していた。日本でのその分野の専門機関訪問は私にマレイシアにおける諸問題解決のためのヒントや方法を与えてくれた。また、日本警察の勤務態度、密接な情報網など感銘を受けた。	①現行の研修期間で十分である。 心理学的側面も研修科目にいれてもらいたい。 ②自国の帰国研修員の若干名は知っており、ときどきには情報交換を行っている、同窓会には参加したい。 ③マレイシアの社会が直面している大きな課題は、21才以下の若い世代による、"loafing(ぶらぶら生活する)"である。これは逸脱行為を伴い、伝統的な宗教=文化的な価値を損ねていることだ。 ④犯罪捜査の国際協力は、様々な国の外国犯人引き渡しに関する法律によって活動範囲が制限される。幸い、マレイシアは、英連邦の国であるから、犯罪捜査活動にかかる枠組みがあり、またアセアン諸国にも同じような枠組みがある。このため、警察幹部は折に触れ会合を持っているし、こうした種類の枠組みがアジア全域に拡大

記号	参加年度幹部研修捜査セミナーの別	参加時現職	調査時現職	質問項目		
				候補者選定過程等について	帰国してから見たセミナーの評価・成果について	その他(①このセミナーに望むこと、②同窓会について、③現在任務遂行上必要としていること④フォローアップなど)
						され、必要に応じ警察幹部の会合がもたれるようになってほしい。
Sams	1993 研修	Deputy officer in charge of Police District, Ipoh (Superintendent)	同左	問題はない。	非常に役に立った。	①記述なし。 ②帰国研修員の若干名は知っていて、折に触れ情報交換する。同窓会には参加している。 ③麻薬密売、マネーロンダリング(資金浄化)および国際的なつながりによる悪徳的活動に対処する国際協力が重要である。

《添　付　資　料》

1. 現地セミナー出席の帰国研修員リスト（含む関係参加者）

2. 国際捜査セミナー及び上級警察幹部研修コースの概要

3. クエスチョネアー

4. タイ警察及びマレイシア警察組織等

別添 1-(1)　タイ国第一部現地セミナー参加者リスト

LIST OF EX-PARTICIPANTS
FOR
SEMINAR ON CRIMINAL INVESTIGATION AND ADVANCED COURSE FOR SENIOR POLICE ADMINISTRATORS
ATTENDING THE SEMINAR ON THURSDAY, 10 NOVEMBER 1994

Name of Ex-participant	Position/Organization	Signature
1. Pol.Maj. Wiwan Suwansamrith	Inspector of Section 4 (Automatic Fingerprints Inspection) Sub-div. 1, Scientific Crime Detection Div., Office of Scientific Crime	
GEN. 2. Pol.Maj. Chatree Soonthornsorn	Commander, Criminal Records Division, Office of Scientific Crime	
Pol.Lt.Col. 3. Pol.Lt . Todsanad Pavaputanon	Inspector of Section 4 Sub-div.2, Traffic Police Division Metropolitan Police Bureau	
4. Pol.Col. Sumeth Ruangswasdi	Superintendent Bangsue Police Station Metropolitan Police Bureau	
Lt.Col 5. Pol.~~Maj.~~ Archawan Jotikasthiral	Inspector of Policy & Planning Policy & Planning Sub-div. General Staff Division Narcotics suppression Bureau	
COL. 6. Pol.Lt . Ittipong Pattananupong	Deputy Superintendent Sub-div.3 Office of the Secretariat	
COL. 7. Pol.Lt. Akarapol Boonyopastham	Inspector of Administrative Phatumwan Police Station Metropolitan Police Bureau	

別添 1-(2) タイ国第二部現地セミナー参加者リスト

LIST OF EX-PARTICIPANTS
FOR
SEMINAR ON CRIMINAL INVESTIGATION AND ADVANCED COURSE FOR SENIOR POLICE ADMINISTRATORS
ATTENDING THE SEMINAR ON FRIDAY, 11 NOVEMBER 1994

Name of Ex-participant	Position/Organization	Signature
1. Pol.Col. Manoch Satrulee	Deputy Commander Police Tourist Division Central Investigation Police Bureau	[illegible]
2. Pol.Lt.col. Torsak Saardpark	Deputy Superintendent Sub-div.1, Highway Patrol Police Division Central Investigation Police Bureau	[illegible]
3. Pol.Maj. Kitti Chattavanich	Scientist (Second Level) Scientific Crime Detection Division Office of Scientific Crime	
4. Pol.Lt.col. Adisak Noiprasert	Inspector of Investigation Samutprakarn Provincial Police Provincial Police Area 1	[illegible]
5. Pol.Lt.col. Sukit Kointarangkul	Inspector of Section 2 Sub-div.1 Personnel Division Office of the Personel Bureau	[illegible]
6. Pol.Lt.col. Surapol Tanakoses	Deputy Superintendent Phayathai Police Station Metropolitan Police Bureau	[illegible]

別添 1-(3) マレイシア国現地セミナー参加者リスト

INVITEES LIST FOR SEMINAR ON 15TH NOVEMVER 1994

TIME : 11.00 to 2.00 p.m

VENUE : THE ISTANA HOTEL, MUTIARA ROOM, 23rd FLOOR

1.	Datuk Samsuri b. Arshad	Deputy Inspector General of Police
2.	Datuk Ramli b. Hj Karim	Deputy Director Management (Training)
3.	Mr Abdul Hamid b. Mustafa	Deputy Director Management (Administration)
4.	Mr Ariff b. Khamis	Deputy Director CID 2
5.	Mr Ahmad Sofian b. Md Yassin	Deputy Superintendent of Police (Training)
6.	Mr Azlan b. Abu	Inspector (Training)
7.	Mr Mohd Sedek b. Hj Mohd Ali	Chief Police Officer of Perak Contigent
8.	Mr Baharin Rejab	Ex-participant
9.	Mr Mohammad Hj Ismail	- do -
10.	Mr Arshad Hj Mokhtar	- do -
11.	Mr Abdul Halim Ahmad	- do -
12.	Mr Abdul Aziz Bulat	- do -
13.	Mr Abang Razali Abang Abdul Karim	- do -
14.	Mr Hassan Abdul Mutalip	- do -
15.	Mr Mohd Bakri Mohad Zinin	- do -
16.	Mr Salihudin Serap	- do -
17.	Mr Mohd Fauzi Saari	- do -
18.	Mr Nasrudin Mohd Ali	- do -
19.	Mr Wahab Ahmad	- do -
20.	Mr Asari Hj Mokhtar	- do -
21.	Mr Saharudin Samsudin	- do -
22.	Mr Abd hamid Husin	- do -
23.	Mr Zainal Jaafar	- do -
24.	Mr Koji Kanbara	EOJ
25.	Mr Masahiro Okubo	EOJ
26.	Ms Kayoko Mizuta	JICA
27.	Mr Tadayuki Kusano	JICA
28.	Mr Takao Kaibara	JICA
29.	Mr Toshinori Kanemoto	Survey Team Leader
30.	Mr Yasuo Niimi	Team member
31.	Mr Yutaka Noshiro	Team member
32.	Mr Andrew Goh Eng Leong	Ex-Participant

別添 1-(4) 香港帰国研修員懇談会参加者リスト

Mr.LAU Yuk Kuen, Douglas 1985年国際捜査セミナー	Assistant Commissioner of Police, Regional Commander, New Territory North
Mr.LEUNG Cheuk Hay, David 1987年国際捜査セミナー	Superintendent, Assistant District Commander, Administration, Yau Tsim
Mr.Trevor John Oakes 1988年国際捜査セミナー	Senior Superintendent, Crime, Hong Kong Island Regional Headquarters
Mr.CHik Ki Yan 1993年国際捜査セミナー	Superintendent, Criminal Intelligence Bureau
Mr.WONG Chun Chin 1994年国際捜査セミナー	Chief Inspector, Criminal Intelligence Bureau
Mr.CHAN Wai Kong, Gabriel 1994年外国上級警察幹部研修	Superintendent, Commercial Crime Bureau, (D)

別添 2-(1)

1．セミナー名等

(1) セミナー名

（和　文）　平成７年度国際捜査セミナー（組織犯罪）

（英　文）　Seminar on Criminal Investigation(criminal organization) in 1995

(2) 研修期間

平成７年４月４日（火）から４月28日（金)(25日間)

(3) 定　　員

10名（参加者13名）

2．目的及び経緯

参加各国の犯罪捜査に関連する諸問題について研究及び討議を行い，犯罪捜査に関する外国人研修員の知識の習得と技術の向上に貢献し，ひいては，我が国と参加各国との友好関係の増進を図るとともに，我が国刑事警察の組織及び運営，各種犯罪の捜査手法等について外国人研修員の理解を深めることを目的とする。とりわけ，本年度は，組織犯罪捜査について各国研修員が発表，討議を行い，この分野での国際協力の強化を図ることとする。

なお本セミナーは昭和50年（1975年），犯罪の国際化が急速に進展するなかで，参加各国の国際捜査担当の主管課長等警察幹部が相互に国際捜査関係法令について理解を深め，より効率的な捜査手法について相互認識を高め，もって各国における犯罪の防止と鎮圧等，国内治安の安定に貢献することが重要であるとの認識のもとに設立されたもので，第１回から第６回までは隔年に実施してきたが，昭和61年（1986年）の第７回からは常設化され，毎年実施となっている。

3．到達目標

今回のセミナーでは，研修員の講義・視察研修・研修旅行への積極的参加により，我が国刑事警察の組織運営全般及び各捜査方法に対する理解を深めるとともに，「参加者

の発表」の場での意見交換を通して所期の開催目的の達成に努める。

4．研修項目・研修方法

(1) 研 修 項 目

別添3の日程のとおり。

(2) 研 修 方 法

イ．講義（警察庁の課長クラス及び課長補佐クラスによる）

ロ．視察研修

ハ．参加者による発表

ニ．研修旅行

5．研修員参加資格要件及び応募状況

(1) 資 格 要 件

イ．所定の手続により割当国政府から推薦された者

ロ．中央警察機関の組織犯罪捜査担当課長又はそれに相当する者（警視又は警察少佐以上年令が35才～50才）

ハ．英語を十分理解する者

ニ．精神的，身体的に健康な者（妊娠中の者は不可）

ホ．過去において，警察庁又はＪＩＣＡが主催するこの種のセミナーに参加したことのない者。

ヘ．軍籍にない者

(2) 人選方法及び選考基準

関係機関の協議により，資格要件を満たしている者の中から優先度の高い者を選考する。

(3) 割当国及び要請状況

要 請 ・ 受 入 状 況

割当国	要請数	受入数	備考
インド	0	0	
インドネシア	0	0	
大韓民国	1	1	
マレイシア	1	1	
パキスタン	4	2	
フィリピン	2	1	定員オーバー
スリ・ランカ	2	2	
タイ	0	0	応募なき旨回電あり
香港	1	1	
レバノン	2	2	日本大使館からの特段の要請により2名受入れる
ブラジル	2	1	定員オーバー
メキシコ	2	1	定員オーバー
ヴェネズエラ	1	1	
計 13ヶ国	18名	13名	

6. 研修実施体制及び運営

(1) コース運営の仕組み

イ. 警察庁長官官房国際部及び警察大学校国際捜査研修所が，警察庁関係各課及び都道府県等の協力を得て実施する。なお，国際捜査研修所がその事務を担当する。

ロ. 研修監理員はできる限り当該分野の専門知識を有し，経験豊富な者を配置する。

7．研修・宿泊施設

(1) 研修実施機関

警察庁警察大学校国際捜査研修所

〒164 東京都中野区中野４－13－１

Tel 03－3387－6111（代）

(2) 研修委託機関

財団法人　警察大学校　学友会

〒164 東京都中野区中野４－13－１

(3) 宿泊施設

国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10－５

Tel 03－3269－2911（代）

8．研修教材・資機材

(1) 教　　材

イ．テキスト，ブックレット等

(ｲ) 刑事警察関係法令集

(ﾛ) Police of Japan

(ﾊ) White Paper on Police

(ﾆ) Forces of Order

(ﾎ) 各種統計図表

ロ．資　機　材

(ｲ) スライド・プロジェクター

(ﾛ) 有線テレビ機（ビデオ用）

(ﾊ) オーバーヘッドプロジェクター

(ﾆ) 電動タイプライター・ワードプロセッサー

(ﾎ) コピー機

9．研修付帯プログラム

集合ブリーフィングにおいて，日本での生活上の注意，登録，滞在費支給についての説明等を行う。

10．研修の評価

評価は，評価会等により行う。

研修計画，各項目の内容，全般的アレンジ等につき，参加研修員の意見を聴取し，本セミナーの有効性及び効果を計るとともに，問題点については今後の課題としてとりまとめる。

11．その他

(1) 警察大学校国際捜査研修所捜査実務研修科の研修生３名が本セミナーとの合同研修を行う。

(2) 講師等控室

研修期間前及び期間中は，国際捜査研修所に事務局を設け，講師，研修監理員，日本人研修生，事務局員等の打合せ，待機，連絡等のほか，教材，資機材，事務用品，資料，辞書等の保管のため利用する。

別添１．研修関係機関及び関係者リスト

別添２．国別研修員参加実績表

別添３．研修日程

別添４．研修員リスト

別添５．日本人研修生リスト

別添－１　研修関係機関及び関係者リスト

技術協力担当

警察庁警務局人事課	北　澤　一　浩

運　営　担　当

警察大学校国際捜査研修所長			兼　元　俊　徳
〃	国際捜査第一研修室長		繁　田　　　誠
〃	国際捜査第一研修室教授		黒　田　謙　介
〃	〃	助教授	高　梨　博　昭
〃	〃		藤　井　康　彰
〃	〃		久　山　立　能

別添－2　国別研修員参加実績表

地域	参加国	1975	1977	1979	1981	1983	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	計
アジア	バングラデシュ	—	1	—	—	2	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	5
	インド	1	1	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	7
	インドネシア	1	1	1	1	—	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	—	15
	韓国	1	1	1	1	—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	マレイシア	1	1	1	1	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
	ネパール	1	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
	パキスタン	1	1	1	1	—	—	—	2	2	1	2	1	1	—	1	2	16
	フィリピン	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	2	1	1	—	1	1	19
	シンガポール	1	1	1	2	2	1	2	—	1	1	1	1	—	1	—	—	15
	スリランカ	1	1	1	1	2	1	—	1	1	—	1	1	2	1	1	2	17
	タイ	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	—	1	—	1	1	—	14
	香港	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
	モルディブ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
中近東	エジプト	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	イラン	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	イラク	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	レバノン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
	オマーン	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	サウディアラビア	—	—	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3
	シリア	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	トルコ	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	アラブ首長国連邦	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
アフリカ	象牙海岸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1
	ケニア	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	4
	タンザニア	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	ザンビア	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	2
中南米	アルゼンチン	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	3
	ボリヴィア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
	ブラジル	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	4
	チリ	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	コロンビア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
	ホンデュラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
	ジャマイカ	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	メキシコ	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	3
	パナマ	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	ペルー	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	グアテマラ	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1
	ヴェネズエラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
オセアニア	フィジー	1	1	1	—	1	1	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	7
	パプア・ニューギニア	—	1	1	1	1	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	6
	ソロモン諸島	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
参加国数		13	16	17	13	14	19	12	9	9	11	11	10	11	10	12	10	41
参加者計		13	16	17	15	18	19	13	11	12	12	13	10	12	10	12	13	216
日本人研修生		—	—	5	5	3	5	3	3	6	6	6	6	7	7	4	3	69

参加国総計（日本含む）：42カ国　　参加者総計：285名

別添－3　第16回国際捜査セミナー（組織犯罪）研修日程

別紙

月日	曜日	第1時限 (10：00～12：00)	第2時限	第3時限 (14：00～16：00)	第4時限	備考
4月4日	火	来日				ＩＦＩＣ宿泊
5日	水	ブリーフィング（ＩＦＩＣ）				
6日	木	一般オリエンテーション（ＴＩＣ）				
7日	金	同上				
8日	土	同上				
9日	日	休日				
10日	月	開講式 10：30～11：00　校長表敬	オリエンテーション	日本警察の概要（国際研）		校長主催レセプション
11日	火	組織犯罪捜査(1)		カントリーレポート発表，討議		
12日	水	薬物犯罪捜査		カントリーレポート発表，討議		
13日	木	銃器対策		カントリーレポート発表，討議		
14日	金	カントリーレポート発表，討議		刑事警察の課題		
15日	土	休日				
16日	日	休日				
17日	月	組織犯罪捜査(2)		カントリーレポート発表，討議		
18日	火	地域警察活動		神奈川県警察通信指令本部見学		
19日	水	府県研修（岡山県警察本部） 概要，組織犯罪捜査・地域警察活動 本部指令室・警察署・鑑識科学センター・交番見学				
20日	木					
21日	金	府県研修（広島県警察本部）　本部見学				
22日	土	休日				
23日	日	休日				
24日	月	ＵＮＡＦＥＩ訪問		府中刑務所見学		
25日	火	全体討議				
26日	水	評価会・閉講式（ＪＩＣＡ）				
27日	木	帰国準備				
28日	金	帰国				

別添 2-(2)

1. コース名等

1) コース名

和　文：上級警察幹部研修コース

英　文：THE COURSE FOR SENIOR POLICE ADMINISTRATORS

2) 研修期間　平成6年5月10日～平成6年8月5日（88日間）

3) 定　　員　12人

2. コースの目的・背景

1) コースの目的

この「上級警察幹部研修」の目的は，関係各国警察の将来の最高幹部たりうる上級幹部警察官の参加を得て，わが国警察の組織運営，警察活動，各種捜査技術等の警察業務全般について研修を行うとともに，関係各国の警察業務全般についての意見交換を行い，もって各国の社会の安全向上と発展に寄与することにある。

2) コースの背景

組織暴力犯罪，銃器・薬物の犯罪，国際テロ等は，いまや東南アジア各国をはじめ世界各国が直面してる共通の問題となっており，各国においてこれらの犯罪の取締りや防止のための施策が積極的かつ強力に推進されている。しかし，昨今の急激な国際化の進展に伴い，各種の犯罪を根絶し社会の安全を維持するためには，もはや一国だけでなく，関係各国が国内外において最大限の協力を行い，強力な対策を実施することが不可欠となっている。

1988年6月，東京で開催された「アジア・太平洋地域治安担当閣僚会議」においても，各国間の捜査連携，情報交換の強化等の必要性が強調され，これに対応して，本件研修コースの設置を見るに至った。

3. 到達目標

本研修は，前記の研修目的を達成するために，次の点を目標とする。各研修員が，

(1) 日本警察についての理解を深めるとともに，それぞれの国の警察活動の現状を互い

に認識する。

(2) 広く警察業務全般について理解を深め，もって将来の最高幹部として必要な幅広い知識を身に付ける。

(3) 各国警察の抱える問題点の所在とその解決策についての研究討議を行う。

(4) 相互の親睦を深め，互いの国際的連帯感や協力精神を涵養する。

4．研修項目・研修方法

1）研修項目

(1) 基調講演，組織，研修員カントリーレポート発表 …………… 1週間

(2) 地域警察活動 ………………………………………………… 2週間

(3) 府県警察実務研修（大阪，愛知） …………………………… 1週間

(4) 組織管理 ………………………………………………………… 0.5週間

(5) 捜査・鑑識 ……………………………………………………… 1週間

(6) テーマ別府県警察視察研修（山梨，岩手，新潟） …………… 1週間

(7) 危機管理 ………………………………………………………… 0.5週間

(8) 警察庁研修 ……………………………………………………… 0.5週間

(9) 各国警察研究討議 ……………………………………………… 0.5週間

(10) グループスタディ ……………………………………………… 0.5週間

(11) 論文作成 ………………………………………………………… 0.5週間

(12) 論文発表 ………………………………………………………… 1週間

(13) 研修旅行（北海道） …………………………………………… 1週間

2）研修方法

本研修は，主に，研修員の経験や知識に基づく討議形式（警察庁の課長又は課長補佐クラスのチューターが適宜アドバイスを行う。）によって行われる他，講義，ビデオ鑑賞，スライド鑑賞，実習，見学，論文作成，研修旅行等が適宜行われる。

5. 研修員参加資格要件等

1）GENERAL INFORMATION（G.I）で示された参加研修員の資格要件は，下記のとおりで

ある。

(1) 正式の手続きにより割当国政府より推薦された者であること。

(2) 将来の，中央警察機関の最高幹部たりうる若手幹部警察官で，中央警察機関の課長補佐相当の職にある者（警部又は警視相当の階級にある者）であること。

(3) 年令が30才以上45才未満であること。

(4) 十分な英会話，英作文の能力を有すること。

(5) 本研修に参加するにあたり，精神的にも身体的にも十分健康であること。なお，妊娠中の者の応募は認めない。

(6) ＪＩＣＡが実施するいずれのコースにも参加したことのない者であること。

(7) 軍籍にない者であること。

2） 人選方法及び選考基準

参加割当国に対して日本大使館及び国際協力事業団海外事務所を通じ配布された本件コースの G.Iに基づいて相手国政府から提出された要請書（A_3 フォーム）により，G.I 記載の資格要件を主たる選考基準として，国際協力事業団と警察庁とが協議して研修員の人選を行う。

3） 割当国 ……… 8ヵ国

シンガポール，香港，インドネシア，大韓民国，マレイシア，フィリピン，パプアニューギニア，タイ

6. 研修の実施体制

本コースは，警察庁，警察大学校国際捜査研修所，㈶警察大学校学友会および国際協力事業団が協力して実施運営する。国際協力事業団は，本コース開催中研修監理員を配置し，研修の円滑な運営を計る。関係機関は次のとおりである。

警察庁警務局教養課

〒100 千代田区霞が関２－１－２

TEL.(03)3581-0141

警察大学校国際捜査研修所

〒164 中野区中野４－13－１

TEL.(03)3387-6111

㈶警察大学校学友会

〒164 中野区中野４－13－１

Tel 03-3387-6111

なお，詳細については，「11. その他」を参照のこと。

7. 研修・宿泊施設等

研修場所 ： 警察大学校国際捜査研修所

住　　所 ： 〒164 東京都中野区中野４－13－１

TEL.(03)3387-6111

宿泊場所： 国際協力事業団東京国際研修センター（幡ケ谷）

住　　所 ： 東京都渋谷区西原２－49－５

TEL.(03)3485-7051 （代表）

8. 研修教材・資機材

(1) 教　材

ア　テキスト・ブックレット等

（ア）講義用テキスト（英語版）

（イ）日本の警察（英語版）

（ウ）警察白書（英語版）

（エ）刑事警察関係法令集（英語版）

（オ）Forces of Order

（カ）その他，レジュメ，資料類を適宜配布。

イ　視聴覚教材

（ア）ビデオ

（イ）スライド

(2) 視聴覚機材

ア　ビデオセット

イ　オーバーヘッドプロジェクター

ウ　スライドプロジェクター

エ　テープレコーダー

オ　タイプライター

カ　ワードプロセッサー

9　研修付帯プログラム

国際協力事業団は，平成6年5月10日を研修員の来日指定日とし，翌日東京国際研修センターにて来日手続き及び滞在費等の支給に係る集合ブリーフィングを実施する。5月12日，13日及び5月14日は，日本での滞在に関しても日本事情の紹介を中心として下記のプログラムのオリエンテーションを実施する。

ジェネラル・オリエンテーションプログラム

5月12日（木）	5月13日（金）	5月14日（土）
「歴史・文化」 9：45～12：00	「教　育」 10：00～12：00	「都内見学」 8：45～13：00
「社会・日本人」 13：30～15：00	「日本語会話」 13：30～14：30	
「政治・行政」 15：15～16：45	「経　済」 14：45～16：45	

10. 研修の評価

(1) 評価の目的

本コースの実施・運営状況を把握し，研修効果を測定し，研修員の要望を聴取することにより，コース実施上の問題点を明らかにしそれらの分析検討を通じ，次年度以降のコースの質的向上を目指す。

(2) 評価方法

コース終了時に，国際協力事業団所定の様式による“Questionnaire for Future Programmes”及びそのSupplementの回答を研修員に提出させ，研修内容に対する研修員の理解度及び要望などを把握する。また，国際協力事業団関係者，研修受託機関関係者及び研修監理員出席のもとに「評価会」を設け，上記様式を中心に研修員と意見交換を行う。

更にこのような評価方法を踏まえ，コース終了後国際協力事業団並びに各研修受託機関による「反省会」を設け，総括的な評価を行う。

11. その他

研修関係機関及び関係者は次のとおり

運営担当

国際捜査研修所	所長	兼元俊徳
	第一研修室長	繁田　誠
	国際教養専門職	杉水弘幸
	第一研修室助教授	高梨博昭
	同　助教授	黒田謙介
	同　助教授	藤井康彰
	同　助教授	久山立能
	同　事務官	前川敬子

研修委託先

財団法人　警察大学校学友会

事務局長	樹下輝夫

付表－1　第６回上級警察幹部研修日程表

5／16	月	開講式，オリエンテーション	レセプション
17	火	日本の警察制度	CR1　香港(1)
18	水	CR2　インドネシア(2)，タイ(1)，韓国(2)	
19	木	CR3　マレーシア(2)，PNG (2)，日本人研修生(3)	
20	金	CR4　フィリピン(2)	武道大会見学（13：30発）
21	土	10－12　外国研修員とバーベキューパーティー（雨天中止）	
22	日		
23	月	日本の捜査の流れ（埼玉・新井警部）	暴力団対策（暴２）
24	火	薬物捜査（千葉・印東管理官）	鑑識捜査（鑑識）
25	水	地域警察（地域）	防犯警察（防企）
26	木	銃器対策（銃器）	警察教養（教養）
27	金	全体討議１（グループ分け）	派出署，警視庁本部視察（Ｐ３－４）
28	土		
29	日		
30	月	全体府県研修（大阪，愛知）	
31	火		
6／1	水		
2	木		
3	金	全体討議２	ＧＳ１
4	土		
5	日		
6	月	風俗犯罪対策	少年警察（少年）
7	火	交通事件捜査	補導センター
8	水	暴走族対策（交指）	CS2
9	木	安全協会活動（安全協会）	CS3
10	金	指紋センター視察（10－11：30）	科警研視察（１：30－４：00）
11	土		
12	日		
13	月	薬物対策	日本警察の特徴と未来（ベイリー）
14	火	検察制度と捜査	日本の刑事政策
15	水	警察研究	裁判制度と捜査
16	木	日本警察史	国際捜査（国刑）
17	金	２研視察（10－1140）	府中刑務所視察（Ｐ２－）
18	土		
19	日		
20	月	テーマ別視察研修 （捜査，地域，教養：山梨，新潟，岩手）	
21	火		
22	水		
23	木		
24	金	全体討議３　リサーチペーパー説明	日本人研修生修了式・パーティ

その他の講義（予備）　米国の犯罪情勢と対策（米大）
　　　　　　　　　　　米国の麻薬犯罪捜査（米大）

6／25	土		
26	日		
27	月	水上署視察（1030－12）	航空隊視察（P２－）
28	火	警察通信Ｉ	警察通信Ⅱ
29	水	警察装備（装備）	外国人対策（外一）
30	木	校外研修（ディズニーランド，蓼科）	
7／1	金		
2	土		
3	日		
4	月	極左対策（公３）・日赤（外２）	９機視察（14－）
5	火	警備実施（警備）	災害対策（災対）
6	水	国際共助（国際２課）	入国管理（入管）
7	木	校外研修（ディズニーランド，蓼科）	
8	金		
9	土		
10	日		
11	月	トップマネジメント（飯田元大使）	要人警護（警護）
12	火	右翼対策（公２）	危機管理のノウハウ（佐々講師）
13	水	組織管理（ＰＫＯ活動の参加体験）	羽田空港視察
14	木	企業の国際化戦略（木村講師）	
15	金	論文作成	
16	土		
17	日		
18	月	・論文発表と討議	
19	火		
20	水		
21	木		
22	金		
23	土		
24	日		
25	月	・研修旅行（北海道）	
26	火		
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		
8／1	月	全体会議	
2	火	評価会　修了式	
3	水	ＪＩＣＡ評価会，昼食会	

付表－3　国別研修員参加実績表

年度 国別	H. 1	2	3	4	5	6	計
ブルネイ	2	2	2	0	0	－	6
香港	－	－	－	－	1	1	2
インドネシア	2	2	2	2	2	2	12
韓国	2	1	2	2	2	2	11
マレイシア	2	2	2	3	1	2	12
フィリピン	2	2	1	3	2	2	12
パプアニューギニア	－	－	－	－	2	2	4
シンガポール	2	2	0	0	－	0	4
タイ	2	1	2	3	2	1	11
計	14	12	11	13	12	12	74

別添3　クエスチョネアー

QUESTIONNAIRE FOR EX-PARTICIPANTS
IN
SEMINAR ON CRIMINAL INVESTIGATION
AND
ADVANCED COURSE FOR SENIOR POLICE ADMINISTRATORS

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

We greatly appreciate your cooperation in answering the following question.
And for the participants of Advanced Course for Senior Police Administrators, please read "the Seminar" as "the Group Course". (Please typewrite or write in block letters)

I. GENERAL QUESTIONS

1. Name (Please underline surname)

I. MK AI

2. Home address and phone number

3.The year of your participation

19 92

4.Office and Position

(1) At the time you attended the course

Organization:

ROYAL MALAYSIA POLICE.

Position:

CONTINGENT ADMINSTRATIVE OFFICER,
ROYAL MALAYSIA POLICE

(2)Present

Organization:

ROYAL MALAYSIA POLICE.

Position: OFFICER INCHARGE POLICE DISTRICT

Please describe your job.

I AM THE ~~POLCE~~ POLICE CHIEF OF A DISTRICT CALLED
ROYAL MALAYSIA POLICE.

(3) Address of your present organization and your phone number
DISTRICT POLICE HEADQUARTERS, ROYAL MALAYSIA POLICE,
PHONE:

II. PROCESS OF NOMINATION AND PARTICIPATION

1. How did you know about the seminar ?

   I WAS NOMINATED BY MY DEPARTMENT TO ATTEND THE "ADVANCED COURSE FOR SENIOR POLICE ADMINSTRATORS " IN TOKYO, JAPAN.

2. How were you nominated ?

   THE NOMINATION WAS DONE BY THE TRAINING BRANCH OF ROYAL MALAYSIA POLICE HEADQUARTERS KUALA LUMPUR.

3. Please provide any comments on nomination procedure.

   I AM UNABLE TO COMMENT ON THE NOMINATION PROCEDURE BECAUSE IT WAS DONE WITHOUT MY KNOWLEDGE . I BELEIVE ONE OF THE CRITERIA IS THAT THE OFFICER NOMINATED MUST BE AN OFFICER WHO IS EXPECTED TO BE A TOP SENIOR ~~OF~~ OFFICER OF THE ROYAL MALAYSIA POLICE.

4. Did you get the pamphlet "Information on Seminar on Criminal Investigation" (hereinafter referred to as G.I.) before coming to Japan ?

   ☑ Yes ☐ No

   If answer is No, please specify the reason(s).

5. Did you get sufficient information on your flight arrangement, visa application and orientation for pick-up arrangement in Japan ?

   ☑ Yes ☐ No

   (1) If your answer is Yes, how did you get them ?

   ☑ through the JICA office

   ☐ through your government

   ☐ others

   (2) If your answer is No, what kind of information did you need ?

III. QUESTIONS ON THE COURSE YOU ATTENDED

1. Please answer frankly whether the course you attended was beneficial to your work or not.

- [ ] Very beneficial
- [x] Beneficial
- [ ] Not so useful
- [ ] Useless

Please provide a brief comment on your fulfillment of your expectation.

I WAS ABLE TO LEARN AND MAKE COMPARISON ON POLICE ORGANIZATIONS AND POLICE MANAGEMENTS OF PARTICIPATING COUNTRIES.

2. Has the Seminar proved to be beneficial to your organization in improving:

(A) The management of the criminal police organization.

- [x] Yes
- [ ] No

(If yes, please explain how)

I LEARN VARIOUS WAYS OF INVESTIGATIVE TECHNIQUES AND OTHER ISSUES RELATED TO CRIMINAL POLICE ~~ORGANIZATIONS~~ ORGANIZATIONS FROM PARTICIPATING COUNTRIES.

(B) Criminal investigation method,

- [x] Yes
- [ ] No

(If yes, please explain how)

NEW WAYS AND METHODS OF INVESTIGATIONS WERE LEARNT BY PARTICIPANTS.

3. How are you making use of the knowledge and experience you acquired in Japan ?
(Please provide a brief explanation how or what)

THE KNOWLEDGE OBTAINED DURING THE COURSE AND ALSO THE UNDERSTANDING OF CURRENT SITUATIONS IN PARTICIPATING COUNTRIES GIVE ME THE CONFIDENCE TO BECOME A RESPONSIBLE AND GOOD OFFICER TO MANAGE EFFECTIVELY THE POLICE DISTRICT OF WHICH I AM NOW THE POLICE CHIEF.

4. Do you have any proposal or idea for the future improvement of the Seminar ?

existing schedule : Duration ; 25 days (including dates of arrival & departure to and from Japan)
Level ; senior class officer
Number of participants ; 10 persons

a) Duration

b) Participant to be invited (rank, country, number of person,etc.)

c) Subjects to be covered

d) Others

NEW IDEAS AND PROPOSELS WERE SUBMITTED DURING THE EVALUATION MEETING BEFORE ENDING THE COURSE.

IV. QUESTIONS ON COMMUNICATION AMONG EX-PARTICIPANTS

1. Do you know the names of other participants who attended the course from your country ?

- [x] Yes. I know most of them.
- [ ] Yes. I know some.
- [ ] No.

2. Are you exchanging information with ex-participants in and out of your country ?

- [ ] Yes. I am doing so in and out of my country.
- [x] Yes. I am doing so in my country.
- [ ] No.

3. Have you joined in Alumni Association of ex-Participants in your country ?

- [ ] Yes.
- [x] I am planning to join in.
- [ ] No, not interesting.

V. CTHER INFORMATION

1.Major issues

Please briefly outline the current major issues/problems which you have considered the most critical with your job at present ?

AS THE POLICE CHIEF OF A DISTRICT ,THE PROBLEMS FACED ARE MOSTLY RELATED TO FINDING WAYS AND MEANS OF HOW TO REDUCE INCIDENCE OF CRIMES IN THE DISTRICT. NEW WAYS AND METHODS OF CRIME PREVENTION AND SOLVING HAVE TO BE FOUND AND IMPLEMENTED TO FIGHT THE CRIMINALS .I WANT TO BE INNOVATIVE AND AM ALWAYS A STEP AHEAD OF THEM.

2. Please give your suggestions on the international cooperation in the field of criminal investigation, including any training request you may have ?

POLICE OFFICERS OF VARIOUS COUNTRIES IN ASIA SHOULD ALWAYS BE EXPOSED TO ONE ANOTHER IN EXCHANGE PROGRAMMES SO THAT THEY UNDERSTAND POLICE PROBLEMS GLOBALLY.IT IS ALSO A WAY OF CULTIVATING MUTUAL FRIENDSHIP AND COOPERATIVE SPIRIT AMONG THEM.

3. Study abroad

Did you go for study, training, seminar, conference concemed with your job ?

☑ Yes ☐ No

If your answer is Yes, please specify purpose, name of country, year etc.

☐ study country ( ) sponsored by ( ) 19__

☑ training country (Japan) sponsored by (JICA) 1992

☐ seminar country ( ) sponsored by ( ) 19__

☐ conference country ( ) sponsored by ( ) 19__

Thank you very much for your kind cooperation.

別添 4-(1) タイ警察組織

THE ROYAL THAI POLICE DEPARTMENT

Thailand has a national police force officially known as THE ROYAL THAI POLICE DEPARTMENT. It is under a Director General who is directly responsible to the Minister of Interior. The Director General have 4 deputies and 13 assistants who are responsible, repectively, for operations and administration.

Since the organization of the Thai Police is a centralized system, the Police Department receives an annual budget from the central Government through the Ministry of Interior.

The Thai police is a branch of the Civil Service and all polic men exercise their rights and duties as such.

The Thai Police Department is divided into 16 main Bureaus and 6 Divisions. The bureaus are as following

1. Office of Police Personnel
2. Police General Staff
3. Central Investigation Bureau
4. Metropolitan Police Bureau
5. Police Education Bureau
6. Border Patrol Police Bureau
7. Office of the Surgeon General
8. Planning and Budget Bureau
9. Police Cadet Academy
10. Logistics Bureau
11. Narcotics Suppression Bureau
12. Special Branch Bureau
13. Forensic science Bureau

14.Office of Immigration

15.Office of the Royal Household Police

16.Office of the Inspector General

And the Divisions are as following :

1.Office of the Secretariat

2.Foreign Affairs Division

3.Internal Auditing

4.Technical Service Division

5.Finance Division

6.Legal Affairs Division

THE METROPOLITAN POLICE BUREAU

ORGANIZATION STRUCTURE

The Metropolitan Police Bureau (MPB) is an intergal part of Th Royal Thai Police Department which is under the Ministry of Interior. The MPB handles all aspects of police work in the metropolitan area.

Seven Divisions ans one Sub-Division under this bureau are :

1.General Staff Division

2.Northern Basngkok Metropolitan Division

3.Southern Bangkok Metropolitan Division

4.Thonburi Metropolitan Division

5.Metropolitan Patrol and Special Operations Division

6.Traffic Police Division

7.Fire Brigade Division

8.Juvenile Aid Sub-Division

In general, the characteristic of MPB's work is classified int 2 catagories :

1.Administrative Function

2.Operational Function

The Northern, Southern and Thonburi Metropolitan Divisions are further broken down into 26, 16, 27 police stations (repectively). The police station has an initial contact with the public in a matter of cri prevention and suppression, and such other social walfares as traffic contral maintain public order, etc. Within the metropolitan area there 69 police stations located in its jurisdiction.

RANK AND POSITION

A police rank, dependent on its position, is classified into t categaries. One is POLICE OFFICER with the rank from Police Sub-Lieutena to Police General, and the another one is NON- COMMISSIONED OFFICER (NCO from Police Constable to Police Senior Sergeant.

The MPB is a bureau directly under The Royal Thai Police Department. The Commissioner, who holds the rank of Police Lieutenant General, is reponsible for all administration. Six Deputy Commissioners six Assistant Commissioners are appointed to assist him in all areas of MPB's work.

A "Division" is directed by the Commander who holds the rank o Police Major General. The Commander runs his office with an assistance o the Deputy Commanders who hold the rank of Police Colonel.

A "Sub-Division" and "Police Station Level" is headed by a Superintendent with the rank of Police Colonel along with police Lieuten Colonel assigned as a Deputy Superintendent. The police stations serve t operation level which is responsible for crime prevention and suppressio Each police station has its own jurisdiction. The head of police station a Superintendent whom is assised by a Prevention and Suppression Inspect Investigation Inspector, Detective Inspector, Traffice Inspector and Administration Inspector.

Furthermore, in both administration and operation levels, the are Deputy INspectors who hold the rank from Police Sub-Lieutenant to Po Captain. And ones from Police Sergeant Major to Police Lance Corporal ar squadleaders controlling Police Constables who serve as a serviceman.

There are 16 levels of Police ranks, such as in following:

1.Police General

2.Police Lieutenant General

3.Police Major General

4.Police Senior Colonel

5.Police Colonel

6.Police Lieutenant Colonel

7.Police Major

8.Police Captain

9.Police Lieutenant

10.Police Sub-Lieutenant

11.Police Senior Sergergeant Major

12.Police Sergeant Major

13.Police Sergeant

14.Police Corporal

15.Police Lance Corporal

16.Police Constable

DUTIES

Bangkok is not only the capital of Thailand, but also a center o both public and private organizations. There are approximately 9 millio population within the total area of 1,568 square kilometers. The MPB assumes full responsibilities for public order, law enforcement and the safety in lives and properties of the public. Its main function might b divided into two categories ;

Regular Duties

1.Crime prevention and suppression

2.Traffic control and safety

3.Monitory of civil actions, criminal proceeding and prosecution

4.Public services

Special Duties

1.Protecting the sovereign and the VIP on some special occasions

2.Keeping peace and security in the case of civil unrest occurring in the BangKok Metrpolitan area

3.Maintaining public order and security in the area of non-criminal offences

These responsibilities are considered as a heavy burden for the MPB because the Bureau has to deal with approximately 9 million population in its jurisdiction. However, the MPB has been able to carry out its duties by adhering to the following policies ;

1.Increase an efficiency of the metropolitan police work.

2.Ensure all metrpolitan police forces to be united in order to operate on the proper manner.

3.Crate a good relationship and mutual benefit between police and the public by improving police services and having the public participated in police activities.

4.Maintain public trust and respect

ROLES OF THE METROPOLITAN POLICE

The roles of metropolitan police can be divided into 8 categorie

1.Crime Prevention and Suppression

2.Criminal Investigation

3.Vice Control

4.Traffic Control

5.Public Services

6.Community Police Relation

7.Image and Welfare

8.Administration

POLICE STATION

The police station has divided into 5 functions ;

1.Crime prevention and suppression

2.Traffic

3.Detective

4.Investigation

5.Administration

INVESTIGATION ON CRIMINAL ORGANIZATION IN MALAYSIA

INTRODUCTION

The primary role of the Royal Malaysia Police (RMP) is to safeguard the security of the nation, ensure conducive and smooth progress of national development and the maintenance of the democratic way of life that prevails in Malaysia. The functions of the Police Force are spelt out in Sec:3(3) of the Police Act as follows:-

"The Force shall subject to the provisions of this Act be deployed in and throughout Malaysia (including the territorial waters thereof) for:-

1) The maintenance of law and order.
2) The preservation of peace and security of Malaysia.
3) The prevention and detection of crime.
4) The apprehension and prosecution of offenders, and
5) The collection of security intelligence.

THE POLICE ORGANIZATION

2. The overall command of the police force is the Inspector General of Police (IGP). He is responsible to the Minister of Home Affairs for the direction and control of the organization. He is assisted in that behalf by a Deputy Inspector General of Police (DIG) whose sphere of command extends over the various Departments, Components and Contingents, with regard to the coordination of work and the implementation of the Inspector General's policies.

The Inspector General's Headquarters consists of five Departments each of which is headed by a Director in the rank of

Commissioner of Police. The five Directors are the principal staff officers of the IGP and have executive authority in respect of their respective departments i.e. Criminal Investigation, Special Branch, Management, Internal Security and Public Order and Logistics. They are en tasked to implement policies decisively, firmly and ensure that all ground commanders execute them effectively. Organization chart of the RMP as in Appendix "A".

THE DIRECTOR OF CRIMINAL INVESTIGATION (C.I.D)

3. The Director C.I.D. is responsible for the prevention and detection of crime, apprehension and prosecution of criminals. This is a major responsibility which embraces all the functions of the police service. To facilitate this process there are two deputies under him i.e:-

(a) Deputy Director Administration/Prevention.

Dealing with all matters pertaining to administration, criminal records, finger-prints and CID Railways.

(b) Deputy Director Planning/Operations

This division deals with the analysis of crime, both at national and international levels and maintains links with Interpol. Special investigation in various complicated crimes, technical aids to investigation including the Dog Unit, Detective Establishment, Secret Societies, Anti Vice and the Anti Narcotic Units.

At the state level the Officer-in-charge of Criminal Investigations (O.C.C.I) of every state is responsible for all criminal matters and is under the direct command of the Director C.I.D. The state C.I.D. have the same set up as that in the

headquarters. In the Districts the O.C.C.I. is being assisted by the Deputy Officer-in-charge of Police District Crime (D/OCPD (Crime) who will be directly supervise investigations carried out by all Investigation Officers in that district. Please see the organization chart of the CID set up of the RMP as in Appendix "B" and "B1"

ORGANIZED/SYNDICATED CRIMES IN MALAYSIA

4. In Malaysia, the Chinese triad societies used to be involved in organized/syndicated crimes. They not only operate in the local scene but are also involved internationally. Chinese secret societies with their rigid rites, mythology and rank structure carry out their operations discreetly from behind the facade of guilds and clan associations, thus hampering detection by the authorities. In the 1900's they control the Chinese work force in the country and became a force to be reckoned with, within the Chinese community. With such influence and power, they became to be involved in most of the illegal activities in Malaysia at that time.

The Government managed to check their growth, by enacting legal sanctions and preventive laws, thus their activities were contained to a considerable extent. The present day secret societies have virtually abandoned their lofty ideals of secrecy and brotherhood, and most of them remained as thug groups. These thug groups carried out outrageous crimes of violence to obtain money by any means, but mostly through, fear, corruption and force. The triad leaders of the past, through years of participation in crime, secured firm financial base and converted those profits into channels of influence and legitimate

enterprise and ventures.

There are also illegal syndicates who has no affiliation with any secret society, but employ triad members as enforcers so as to provide the muscle for the organized crime.

These syndicated organization i.e. secret societies, thug groups, and illegal syndicates are still involved in their traditional activities such as gambling, prostitution, extortion and protection rackets, which are the financial keystone of organized crime. With the increase in technological communication, these syndicates have also ventured into new fields such as drug trafficking.

TYPES OF ORGANIZED/SYNDICATED CRIME IN MALAYSIA

Gambling and Betting Syndicates

5. Organized syndicates have made their financial foundation through the activities of gambling and betting. Funds and profits from this lucrative venture are used to underwrite all other types of criminal activities. It is seen that large segments of organized syndicates handle or manage horse betting and illegal character lottery. With their sophisticated and advanced communication equipments it is difficult for the authorities to track them. However, quite a number of these syndicates were crippled and their members prosecuted due to police action. Some of these syndicate members have regrouped to perpetuate and continue these activity. Over the last two years the Royal Malaysia Police (RMP) uncovered five illegal betting stations equipped with sophisticated communication equipments and managed to stamp out the activities of two well known organized betting syndicates. Table 1 and table 2 shows police success in

combating illegal gambling and betting as in appendix `C'.

Prostitution

6. Criminal organizations and syndicates still indulge in prostitution as it is one of the financial keystone of organized crime. Although prostitution can be carried out in brothels, but many of these syndicates operate behind the facade of private messes, clubs and legitimate health centers. They have extend their activity internationally as they provide foreign prostitutes. There are indications that collusion exists between organized criminal syndicates in the flesh trade. The RMP is currently trying its best to identify these groups and its international connection. From January to June 1994, a total of 1401 foreign prostitutes are arrested and deported. They were mainly Thais, Indonesians and Filipinos. Organized syndicates involvement in prostitution gave rise to other ancillary crimes such as protection rackets, extortion and loan sharking.

Involvement in theft of motor vehicle

7. Organized syndicates with the connivance of certain corrupt officials, insurance agents, financial firms, garages, motor workshops and used car agencies have entered into the profit making activity of theft of motor vehicles. They scheme up new identities for all stolen vehicles before being disposed to unsuspecting buyers. Apart from this they also cannibalized stolen vehicles for their parts and accessories.

The RMP have identified several of these syndicates and appropriate action has been taken against them and is also gathering evidence to establish their international link. Malaysian registered vehicles have allegedly found their way into

Thailand, and Singapore registered stolen vehicles have been recovered in Malaysia. Table 3 in appendix `D' depicts our success against theft of motor vehicles by syndicates.

Dadah/Drug Trafficking

8. The drug problem is still the No.1 public enemy in this country and is regarded as a threat to national security. Presently the addict population in Malaysia is believed to be 156,824 of which 80% of them are heroin addicts. The daily consumption of heroin by these addicts are estimated at 13.9 kg. Malaysia is still being used as a transit point for international drug syndicates following the route from the Golden Triangle to Australia and the West. Drugs such as raw opium, morphine, heroin base, heroin no.3 and 4 and cannabis are smuggled into Malaysia by land through the various legal as well as illegal entry points along the Malaysia and Thai border which stretches for 567 km. Due to the wide coastal area of Malaysia, drugs are also being smuggled into Malaysia by sea from across the Thai border. The Malaysian authorities is stepping up operations to prevent drug smuggling by placing narcotic dogs at legal entry points, permanent road blocks at border areas, and constant patrolling of the coastal area by the Marine police and the border by the Anti Smuggling Unit.

Illegal syndicates brought drugs consignments from the Golden Triangle to drug storage points in South Thailand. Malaysian drug syndicates having connections with the Thai drug syndicates and other international syndicates are responsible in smuggling these drugs into Malaysia before re-routing them to other international destinations. Due to police concerted efforts

to combat this menace, the Police have uncovered 17 illegal make shift drug laboratories in 1988 until 1992. Table 4 in appendix `D' depicts police success against drug trafficking.

Firearms Smuggling

9. Due to rampant armed robberies, murder and kidnapping, firearms smuggling has found their way into Malaysia by profiteering individual criminals. The RMP have yet to identify illegal syndicates indulging in firearms smuggling, but nevertheless it has been established that these individuals purchase arms from neighbouring countries to carry out their nefarious criminal activities in Malaysia. Through constant stringent measures the RMP have recovered a total of 343 firearms from the year 1991 until 1994. Please see table 5 in appendix `E' for further details.

Commercial/White Collar Crimes

10. Malaysia has excelled in its economic development and with this the Malaysian public involved themselves into share markets to improve their financial situations. With this opportunity, bogus and illegal syndicates involved themselves into deposit taking from the public with a promise of double profit in future transactions. As such, many Malaysians fall prey to this bogus and illegal syndicates with a loss of millions of dollars. The RMP have smashed 5 such illegal and bogus syndicates running illegal deposit schemes from the public and their members brought to book.

ENFORCEMENT MEASURES

11. In order to check and control the proliferation of organized crime, appropriate laws to hinder such activities were

enacted by Parliament. The existence of Penal and Preventive Laws assist law enforcers to curb and annihilate organized crime. They are as follows:-

11.1 Penal Laws

a) The Common Gaming House Act 1953 and the Betting Ordinance 1953.

b) The Dangerous Drugs Act 1952.

c) Firearms Act 1952 and Firearms (Increased Penalties) Act 1971.

d) Bank and Financial Institutions Act 1988.

e) Women and Girls Protection Act 1963.

The above laws provide powers to law enforcement officers to curb activities of illegal gambling and betting, drug trafficking, illegal use of firearms and ammunitions, illegal deposit taking, and prostitution. These laws were frequently amended to provide for heavier sentences to perpetrators of these illegal activities. For example, those convicted for possession and illegal use of firearms and drug trafficking will get the mandatory death sentence, whereas most of the less serious offences will receive a whipping of not less than six strokes and imprisonment.

11.2. Preventive Laws

(a) Restricted Residence Enactment (Cap 39).

(b) The Prevention of Crime Act 1958.

(c) Emergency (Public Order and Prevention of Crime) Ord.69

(d) Dangerous Drugs (Special Preventive Measures) Act 1985.

(e) Internal Security Act 1960.

These preventive laws were enacted with one thing in mind

i.e. to provide for effective prevention of crime, control of criminals involving crime of violence, control of drug trafficking activities, control of vice, gaming and smuggling, and suppression of organized violence which affects the internal security of Malaysia. These laws allows preventive detention to individuals involving in organized violent crimes being determined by the Minister of Home Affairs. The law also empowered the authorities to detain a person for investigation for a period not more than 60 days, after which all the evidence were presented to the Minister of Home Affairs for his decision whether a person be placed under detention or restriction for not more than 2 years. The detention and restriction period are renewable at any time for a period of not more than 2 years, at the pleasure of the Minister. In order to prevent abuse, these laws also have its safeguards as stipulated by Art. 151 of the Federal Constitution, where an advisory board can review the case of such individuals once every three months or on appeal by the individual. The concept of natural justice will also have to be adhered to as the individual can apply for a review by the courts on the actions by the executives.

In order to prevent money laundering, Parliament have passed a legislation entitled The Dangerous Drugs (Seizure and Forfeiture of Property) Act 1988. This act empowers the authorities to seize and forfeit property illegally acquired from profits of drug trafficking. This statute provides for the assistance in combating unlawful activities relating to dangerous drugs to foreign countries by furnishing information available in Malaysia to a requesting foreign country. Legal process can also

be taken to examine witnesses in Malaysia for the purpose of proceedings in a foreign country and transfer of persons in custody in Malaysia to the authority of a foreign country to attend as witnesses in that country.

INTERNATIONAL COOPERATION

12. The RMP believes in providing support and close cooperation with other Police Forces especially within the ASEAN region in their fight against crime. Due to good communication and efficient transport systems linking the world, criminal activities have become transnational in nature, necessitating mutual international assistance to combat crimes. Regional police cooperation has always been viewed as a practical means where local enforcement authorities can pursue criminal matters outside its jurisdiction. As such, to continue this cooperation, the Association of National Police Forces of the ASEAN Region or ASEANAPOL was formed in 1980. Annual conference is held annually at alternate venues amongst member countries to discuss crime related matters.

Complementing the Aseanapol Conference, the RMP also held bilateral cooperation with the police forces of Singapore, Indonesia and Thailand. Through this cooperation the RMP held bilateral meetings with police officers of these countries pertaining to CID, drug related matters and solving border problems in the interest of all member countries. This mutual exchange of intelligence has resulted success in our efforts to combat crime.

The RMP maintain close cooperation with international enforcement agencies, where drug liaison officers of these

countries are based in Kuala Lumpur, viz:-

U.S.A.	-	2 D.E.A. officers.
Australia	-	1 Australian Federal Police Officer.
New Zealand	-	1 Canadian Mounted Police Officer (based in Singapore).
Holland	-	2 Police Officers (based in Bangkok).
Federal Republic of Germany	-	2 Police Officers (based in Bangkok).

The focus of regional/bilateral cooperation is centered on sharing criminal intelligence and improving communication network for speedy and effective transmission of information from one country to another. Exchange of intelligence are directed towards drug trafficking, smuggling, forgery/currency counterfeiting, kidnapping, robbery/extortion and any syndicated criminal activities with regional implications.

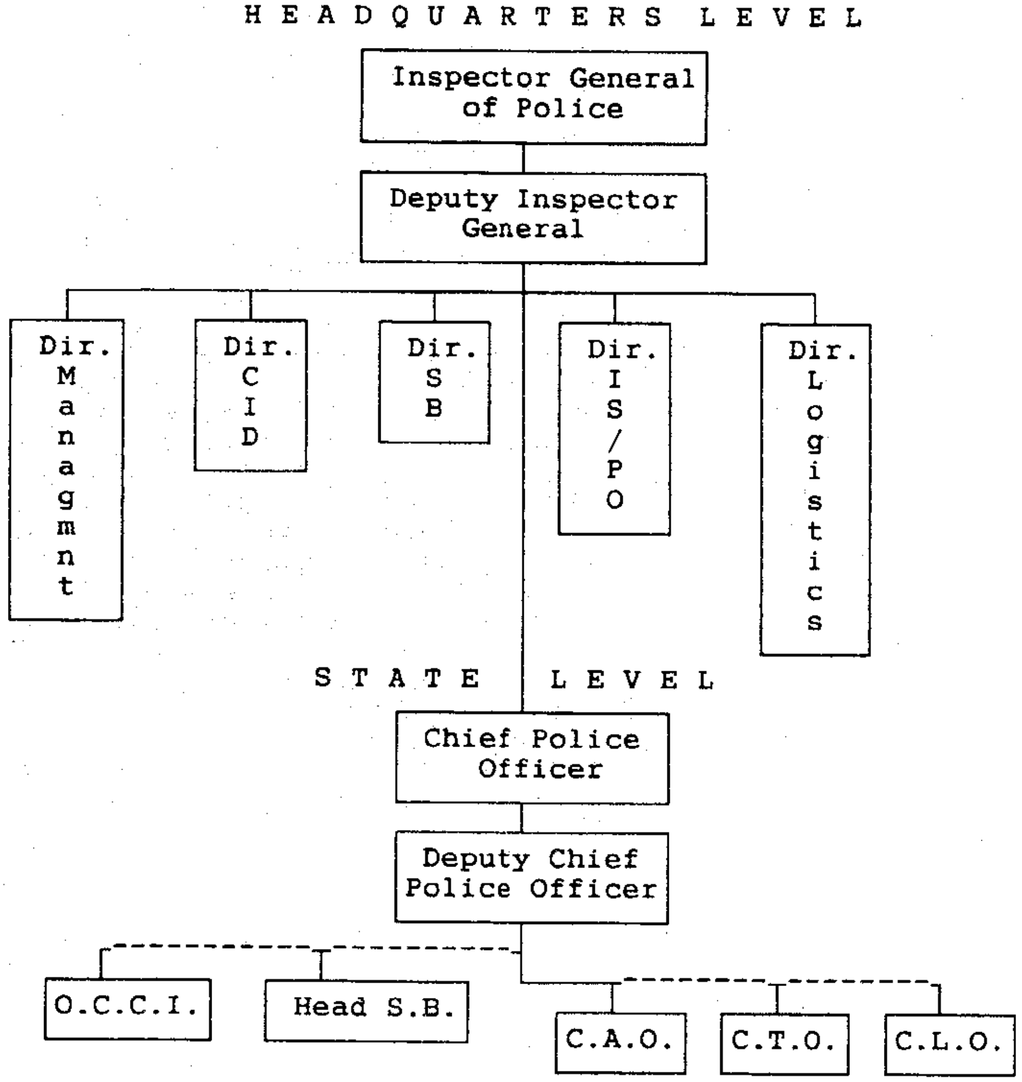
Conclusion

13. Organized crime in Malaysia is not in the same category of organized crime generally associated with the Mafia or the Yakuza, either in its organizational setup or scope of operations. Organized criminal syndicates in Malaysia comprises of thug groups who are opportunists motivated by greed and self gain. Malaysia is serious in facing these criminal activities, with the realization, if left unchecked would have an adverse effect on the established socio-cultural norms and the economic fabric of Malaysia. As such, we stand firm in our fight against organized crime. Malaysian participation in international conferences bears ample testimony to Malaysia's concern to strengthen international cooperation to combat organized crime.

Appendix "A"

Organization Chart Of The Royal Malaysia Police

Headquarters & State Level



Appendix "B"

C.I.D. Organization Chart RMP

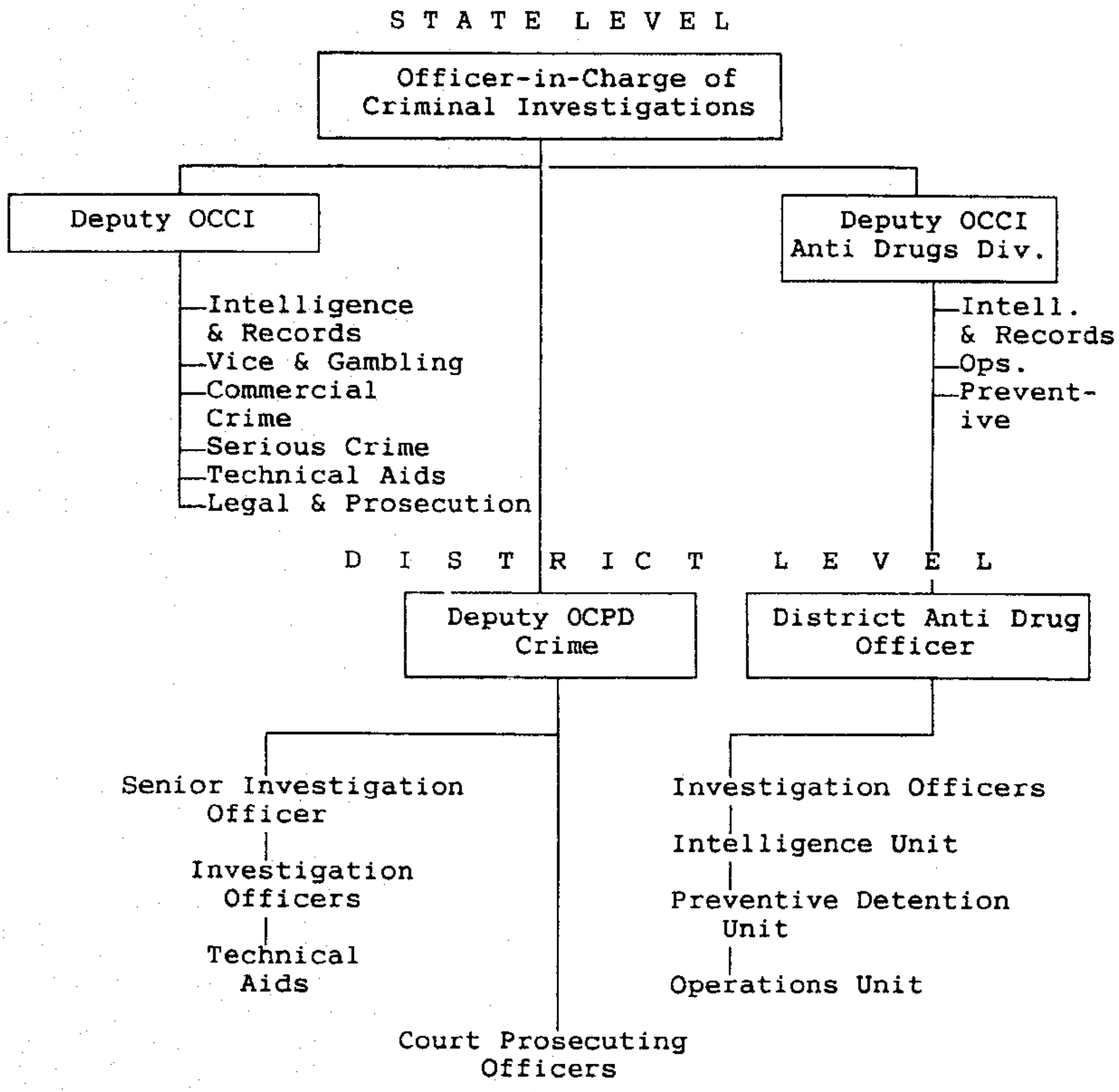
Headquarters Level

- **Director Criminal Investigation Department**
  - **Deputy Dir. Admin.**
    - CID Admin.
    - Criminal Records
    - CID Railways
    - Criminal Registry
  - **Deputy Dir. Operations**
    - CID Research
    - Intelligence
    - Vice & Gambling
    - Commercial Crime
    - Legal & Prosecution
    - Crime Prevention
    - Serious Crimes
    - Technical Aids (Forensic)
    - Crime Detection Units
  - **Deputy Dir. Anti Drugs**
    - Admin.& Records
    - Drug Intelligence
    - Operation Units
    - Preventive &
    - Technical Aids

Appendix "B1"

C.I.D. Organization Chart RMP

State & District Level



LI